

海外移住/雷州半島

181 : 馬之助:

2011/08/19 (Fri) 21:34:35

host:*.bbtec.net

サムライさん

PDF ありがとうございました。

提案のの件、了解しました。

私も気になっていました。海外移住/雷州半島というテーマは、今後重要度を増してくるでしょうから、河岸を変えた方が賢明だと思います。

提案していただいたとおり「ツランという絆」で、継続していただければと思います。

180 : サムライ:

2011/08/19 (Fri) 07:20:47

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

ヨシさんが立ち上げてくれた、「海外移住/雷州半島」、馬之助さんと小生のやりとりは本来のテーマから離れてしまい、折角立ち上げてくれたヨシさんや海外移住について語り合いたい他の皆様に、申し訳ないと投稿の度に思っていました。

そこで提案ですが、馬之助さんさえ宜しければ、今後は「ツランという絆」で続けませんか？このスレッドは小生が立ち上げたものですが、すっかり存在を失念していたスレッドです。

<http://grnba.bbs.fc2.com/?act=reply&tid=13007953>

無論、上記のスレッドに拘りません。馬之助さんが希望するスレッド、あるいは馬之助さんが全く新しいスレッドを立ち上げることも可能だと思います。そして引っ越した後、再びやりとり開始したいと思いますが、如何でしょうか？

なお、「海外移住/雷州半島」でお互いにやり取りした、今までの内容を中心に抜粋し、PDFに転換しました。

http://www2.tba.t-com.ne.jp/dappan/mb/pursuit_of_truth.pdf

179 : 馬之助:

2011/08/18 (Thu) 23:10:02

host:*.bbtec.net

サムライさん

> 孝明天皇の勅は未来透徹の御祓であり、皇女和宮の降嫁は家茂を開眼させて、激変期において来るべき将来に向けて千変万化の神通力を与えた。

> もし学習所なかりせば、幕末・維新は間違いなく日本を滅亡に導き、現在の日本人は無国籍の民として彷徨の旅を続けていたに違いない。

それにしても、明治前後からの時代というものは危機的な状況の連続だったのですね。日本

もアジアの他の諸国のように欧米に蹂躪しかかっていたということですか。それを孝明天皇がお隠れになることで、お力を発揮されて阻止した。それが「未来透徹の御祓」だったり、「皇女和宮の降嫁は家茂を開眼させて、激変期において来るべき将来に向けて千変万化の神通力を与えた」というのですから、絶句するしかありません（現実を受け取る、その次元が他の勢力と違います）。すでに、事変が勃発すると同時に周到な策を巡らされていて今日に至っている、ということでしょうか。変な話ですが、一般に作られてきた天皇とその周辺に対しての評価が低いのはそのためだということですね。今、日本は危機的な状況だといわれていますが、上記のことから考えると、危機的なのは明治以来この国を蹂躪しようとして来た側の話で、これからやっと本来の日本の姿に戻していこうとする計画が結実しようとしているということになりそうですね。ということは、学習所が現在でも機能していて、人材が陸続と排出されているということではないでしょうか。これが皇統奉公衆というものに繋がっていくことになるのでしょうか。

> 公と私の間を綱渡りするという人生を歩んできた役小角、さらには“神”という目に見えぬ存在について…

私も綱渡りが好きで、というか、ほんとは好悪に関わらず綱渡りの人生を余儀なくさせられてきたようなものですが、こうも連続するとさすがに最近では馴れて来て、人生とは本来的にこんなもんなんだと、時々息継ぎに水面から顔を出す感じで思えるようになってきました。そういった心境は紀野一義氏の『法華経の風光』に由るところが大で、その第三巻「虚空に立つ」から引用しておきます。

「虚空に立つという感覚は、実に不安定なものと、ゆったりしたもののが共在して、一種言いあらわしがたい味わいがある。

いつ墜落し、転落するかもしれぬという危機感・不安感。それに対応して絶えずバランスをとっていかうとする人間の戦闘態勢、そんなものをなくしたら、男はもう男ともいえなくなる。」

「地涌の菩薩たちは地下の虚空界にいたのが、地上に涌出して虚空界に立ったという。それは「時」と「場所」を超えているということである。この経がインドで説かれたとか、西暦紀元何年頃に説かれたとかいうことを超越している。「虚空」というのは、時間と空間を超えて、いつでも「今」ということである。いつでも「自分」の問題だということである。」

この、いつでも「自分」の問題だ、というところに、できるならば頬かむりしないで生きていたい、この世に生を受けたひとりとして思うばかりです。いたいと、この世に生を受けたひとりとして思うばかりです。

178 : サムライ:

2011/08/16 (Tue) 04:57:26

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、お早うございます。

> 現実的な思考は純粋な原理として、宇宙全体に影響をもっているが、幸運なことに、人間の非現実的な思考は宇宙やその進化にほとんど影響を与えてこなかった。人間の部分に対して、現実的で、包括的な責任を果たしうる全システムを熟考した非利己的な思考は、その運命にまさに絶対的な影響を与えるのである。（『クリティカル・パス』 p107）

同感。このフレーズの「現実的で、包括的な責任を果たしうる全システムを熟考した非利己的な思考は、その運命にまさに絶対的な影響を与える」こそ、正に栗原氏が使っている神格天皇という表現と根底で結び付くものだと思います。こうした世界があることを確信している、確信していないまでも、そうした何かがあるような気がする、といったことを感じ取れる人間であれば、栗原氏が述べる神格天皇（あるいは天皇の役割）を真に理解する入口に立ったと言っても差し支え

ないと思います。

だからこそ、鹿島昇氏が書いた、「すべて歴史の事件は、人間の動きが中心であり、人間の行動の正邪すべてが合理的に説明できる」という行に接して、「そこにどんな意味があるのか疑問」と馬之助は書けるのだと思います。小生も、そのあたりを公と私の間を綱渡りするという人生を歩んできた役小角、さらには“神”という目に見えぬ存在について、天童竺丸氏に取材をする形で記事を書きました。

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2010/03/post-4f89.html>

『真贋大江山系霊媒衆』

因みに、鹿島氏の著した『裏切られた三人の天皇—明治維新の謎』を一言で云えば、これは「孝明天皇は暗殺された」ことを検証した本です。某識者から「凄い本だ」と言われて同書を読んだ10年前、「なるほど、歴史の裏を描いた凄い本だ」と小生も思ったものでした。しかし、7年前から皇室インナーサークルの栗原氏らと接するようになって、徐々に孝明帝暗殺説に疑念を抱くようになり、昨年の夏に落合莞爾氏とお会いして、暗殺されたとされる日以降も、孝明帝はお隠れになって生き続け、日本を陰で支えたということをはっきりと知りました。尤も、この辺りを落合氏が雑誌などで明みにしたのは、未だ2年程度しか経っておらず、そのため未だにネット界限では孝明帝暗殺説が幅をきかせているのが現実です。

177 : 馬之助:

2011/08/15 (Mon) 14:29:47

host:*.bbtec.net

サムライさん

私はそれほどたくさんの本を読んできたわけではないので、読書家の範疇には入らないと思います。どうも昔から、読書という言葉には感覚的な抵抗感があって、読書と言われると、そんな典雅な趣味はありませんと答えたりしてしまいます。というのは、知識を深めるというような余裕のある本の読み方をしたことがなくて、日々の困難というか精神的な不安に対処するのが目的のような、どちらかという、読まずにはおられなかったという感じのものばかりです。だから、サムライさんが引用されている栗原氏の言葉は理解できます。

>およそ歴史に刻まれる大事故や大事件は天災と人災が絡み合う現象であり、こうした現象の真相は、真事の歴史と実証科学の現場に通じなければ解き積けない。そのためには、霊言の価値に目覚めることが絶対条件であり、霊言の奥義を究めていけば、必ず超克の型示しに達するのである。

私には、大事故や大事件ばかりではなく、日常の些細な出来ごとも「天災と人災が絡み合う現象」であるというか、天と人との交感によるものであって、「こうした現象の真相は、真事の歴史と実証科学の現場に通じなければ解き積けない」と思わないではいられないので、そのために本を読まないではいられなかったように思います。たしか川端康成が、どんな結婚であったとしてもひとつとして平凡な結婚というものはない、それぞれが非凡なものである、というようなことをいっていたように思います。そうでなければ、個人の人生なんて虚しいものだと思ってしまうし、非凡という部分を解明しようという努力を止めてしまったら、さらに虚しいばかりだと思うのです。だからサムライさんのブログにおける、鹿島昇氏の『裏切られた三人の天皇 明治維新の謎』からの引用は、その対極のように思ってしまう。

>私はすべて歴史の事件は、人間の動きが中心であり、人間の行動の正邪すべてが合理的に説明できる、というごく常識的な考えにもとづいて取り組んできたし、そのことはいまだに正しいと思っている。そして歴史を合理的に説明するためには、情報の公開が不可欠なのである。

鹿島昇氏のことは詳しくは知らないので恐縮ですが、この文章からだけを見ると、「ごく常識的な考え」というのがくせ者ではないでしょうか。そこに立脚しえるからこそ、「すべて歴史の事件は、人間の動きが中心であり、人間の行動の正邪すべてが合理的に説明できる」と思えるのではないのでしょうか。これでは、情報の公開が不可欠だとしても、そこにどんな意味があるのか疑問です。そしてそのことは、栗原氏の次の言葉の侍従と並列的に存在するものだと思います。

>昨今の天皇語録と称する情報などは、侍従といえど言霊を知らず、何より自らの職能も弁えない臣の私見にすぎず、神格を人格と貶めて恥じない社会の徒花と何ら変わらない。

フラワーは言います。

>現実的な思考は純粋な原理として、宇宙全体に影響をもっているが、幸運なことに、人間の非現実的な思考は宇宙やその進化にほとんど影響を与えてこなかった。人間の部分に対して、現実的で、包括的な責任を果たしうる全システムを熟考した非利己的な思考は、その運命にまさに絶対的な影響を与えるのである。（『クリティカル・パス』p107）

私は、どんな立派な人物であったとしても、人間としての個人的な話など聞きたくもなくて、それが永遠なるものに繋がってこそ初めて学びたいと思うようです。フラワーのこの言葉は、天皇陛下の役割を語ってもいるのではないのでしょうか。

176 : サムライ:

2011/08/13 (Sat) 13:42:18

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

> 政府と霞ヶ関を臣として一つに括ってしまうのですね。それから経団連を代表とする企業ですが、それをどう位置づけるのか…

企業以外に、宗教法人やマスコミもありますね。栗原氏の場合、企業の大半は私利私欲に走る「欲（私）」の塊だと毛嫌いしており、宗教法人の場合、特に創価学会に対してはけちょんけちょんです。ここに、皇室を侮辱した創価学会の池田大作を、栗原氏は徹底的に嫌っていることが良く分かります。大手マスコミについては、どうしてあの連中は臆面無くチリ紙を大量生産できるのかと呆れています。

最初の頃は、栗原茂氏は皇室インナーサークルだから、上記のようなことを吐くのかと思っていましたが、昨日栗原の著した『超克の型示し』を再読しながら、栗原氏の発言はそのような次元の低いものではないことが分かりました。そこで、以下に幾つか同氏の発言を拾ってみました。

●昨今の天皇語録と称する情報などは、侍従といえど言霊を知らず、何より自らの職能も弁えない臣の私見にすぎず、神格を人格と貶めて恥じない社会の徒花と何ら変わらない。

●人は時空の間を刻む生物であり、その象徴は暦だから、皇紀暦を認識しない日本人は、時空の重大性に気づかない。

> ワイタハ族やマヤ族、ホピ族の長老が後継者を育てていないのは、すでに始まっている新しい時代は、スメラミコトの元に世界が新しい価値観とともに統合されると予感しているからのようです。そういう意味では彼らもツランの同胞と考えていいのでしょうか。

マヤの出自は原日本人（縄文日本人）だったと思います。栗原はどう思うかは分かりませんが、マヤという存在を非常に大切に扱っています。

> 遠い記憶で恐縮ですが、「日本人の脳」で角田忠信氏

同著は栗原と会う東京は池袋の文明地政学協会にも置いてあります。角田氏の言うことを突き詰めれば言霊になると思いますが、栗原氏は霊言（たまこと）と表現しています。『超克の型示し』に以下のような記述がありました。

●およそ歴史に刻まれる大事故や大事件は天災と人災が絡み合う現象であり、こうした現象の真相は、真事の歴史と実証科学の現場に通じなければ解き積けない。そのためには、霊言の価値に目覚めることが絶対条件であり、霊言の奥義を究めていけば、必ず超克の型示しに達するのである。

ところで、言霊とは関係はありませんが、以下のような記述もありました。

●問題なのは吉宗の素性である。紀伊徳川家の二代目藩主光貞の四ナントして吉宗は生まれ、生母は巨勢氏が出自である。巨勢氏は第25代武烈天皇期の家職（姓）重役五氏中の一氏であった。

母親の出自を考えれば、以下の行も納得できます。

●吉宗は一条兼香（関白）と連携して朝廷儀式の復古に力を注ぎ、桜町天皇は皇祖皇宗の伝承に沿う新嘗祭を復活した。

という行も肯けます。

また、読書家の馬之助さんなら鹿島昇をご存じと思います。以下は鹿島昇の書籍をベースに書いた拙記事ですが、栗原と本格的に付き合う前でしたので、鹿島氏の天皇観に小生は大分影響を受けていたことが良く分かります。

http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2005/09/post_fee8.html

明治天皇（1）

詳細は落合莞爾氏が『ニューリーダー』や『月刊日本』に連載中の記事を参考にしてもらって、孝明は崩御した日以降も健在であったこと（孝明暗殺は全くの出鱈目）。これは、妹の和宮や夫君の家茂も同様でした。その狙いは以下の行からも分かります。

●孝明天皇の勅は未来透徹の御祓であり、皇女和宮の降嫁は家茂を開眼させて、激変期において来るべき将来に向けて千変万化の神通力を与えた。

ともあれ、仁孝天皇が熙宮（孝明天皇）と興された大事業こそ、御所の建春門外に開いた学習所（後の学習院）です。その辺り、栗原は以下のように述べています。

●現在のように軽々な学習院とか似非教育の権化たる大学とは異なり、もし学習所なかりせば、幕末・維新は間違いなく日本を滅亡に導き、現在の日本人は無国籍の民として彷徨の旅を続けていたに違いない。

長くなりましたので、この辺で…

175 : 馬之助:

2011/08/11 (Thu) 22:28:29

host:*.bbtec.net

サムライさん

>「君（皇室）」、「民（公を識り、実践している者）」、そして「臣（政府・霞ヶ関）」という三者間の関係だが、君と民は深い絆で結ばれているのに対して、昨今のガン末期症状の臣は、君とも民とも繋がっていないという栗原氏の指摘だった。

これは折りがあつたらお聞きしようと思っていた問題で、どこでどう区分したら良いのか考えていました。政党うんぬんではなくて、政府と霞ヶ関を臣として一つに括ってしまうのですね。それから経団連を代表とする企業ですが、それをどう位置づけるのか…それを民として、公を識り、実践している者にしてしまうと！よく棄民とかつていう話もありますが、そんなことをいう前に、公を識り、実践しろと、これは舎人としての覚悟でしょうか、絶句するしかありません。こうバツサリやってしまうと、むしろ清々しくもあります。飯山さんじゃあないですが、本当のことは誰憚ることなく言えばいいわけで、それをオブラートに包んだ物言いをする場合には、陰に損得勘定による意図があるということでしょうね。

>ツランの同胞のように日本に向かってくる集団もおれば、円高ということで海外に逃げる日本の企業もある。出て行きたい企業（人）は出ていけば良い。現況は1億3000万の日本国籍を持つ者たちに、どれだけ「公」があるかの踏み絵の場となっている。

ワイタハ族やマヤ族、ホピ族の長老が後継者を育てていないのは、すでに始まっている新しい時代は、スメラミコトの元に世界が新しい価値観とともに統合されると予感しているからのようです。そういう意味では彼らもツランの同胞と考えていいのでしょうか。

「出て行きたい企業（人）は出ていけば良い」というのがいい方法だと思います。欲得にまみれたものは、それを行動原理として海外に活路を求めることで淘汰されていくのではないのでしょうか。「私」というものを優先するあまり、人のためにとは思いながらも「私」の集合体を離れることができないで、「公」というものに辿り着けない結果のように思います。

遠い記憶で恐縮ですが、「日本人の脳」で角田忠信氏は、日本人以外は左脳はロゴス脳、右脳がパトス脳で、日本人だけが左脳にロゴス脳とパトス脳があり、右脳にはイメージ脳があるという事を言っていたと思います。そのために、外国人は蟬の声を雑音としてしか捉えられないのに対して、日本人は蟬の声を情緒的なものとして認識しているとしていて、その外国人も、日本にいて日本語で話しているうちに蟬の声が雑音ではなく、情緒的なものと聴こえてくるという話でした。これから一層大切になっていくのは、日本という天地自然と日本語という言霊をもった言語だと思います。そこにこそ救いがあるような気がしています。それが古事記という形で凝縮されているということになるのでしょうか。

弊立神宮のことを調べていたら、今上陛下もご参拝を果たされているというのを発見して、安堵しました。

165 : サムライ:

2011/08/09 (Tue) 11:26:04

host:*.t-com.ne.jp

以下は、栗原氏が自著に書いている内容です。ご参考まで

日本の電話番号において緊急通報あるいは時報や天気予報など、何ゆえ局番を要せず3ケタで通じるのか？如何なる根拠で110番を警察センターに119番を消防センターと決めたのか？これこそ天皇の歴代数と結ぶ意味があり、例えば110番は後光明天皇また119番は光格天皇に当たる。前ページ記載の通り、後光明天皇は似非権現（家康）の定めた御法度に降る天誅を自らの禊祓で鎮め、治安を修復して信書も衛生も安堵する「まつりごと」の本義を知らしめている。また光格天皇は天明大飢饉による食糧危機と疫病伝染の生死に係る絶対的ピンチを自らの禊祓に

より、幕政では達し得ない修復を成しながら同時に科学的シャーマンの上陸に備えた未然予防の措置さえも済ませた。今や神格を人格に落とし込めて恥じない日本社会は、既に無力化している衛生や治安に続き郵政民営化という名のもと信書も壊滅のコースを歩んでいる。局番いらず3ケタで通じる電話番号が期待を裏切る実態に不思議はあるまい。さて本題の天皇制を本義の路線に乗せ替える目的のもと、過去と未来の連続性に結ぶ通史の時空を、開かれた空間に導き出す窓を開くため、前ページ記載の神格に届く潜在性を掘り起こす。

164 : サムライ:

2011/08/09 (Tue) 11:11:49

host:* .t-com.ne.jp

馬之助さん、

原発廃止運動支持者さんの難しい問いを振って申し訳ない。お詫びに昨日会った栗原氏との会話の中で、皇室が如何に民と繋がっているかという話を一つさせていただきます。

過日の今上陛下のビデオメッセージを巡り色々な意見がネットを飛び交ったけど、やはり以下のような意見も出た。

+++++

私は3月18日「天皇メッセージの愚劣」で、アキヒトの読み上げた「お言葉」は、宮内庁の官僚が作文した当たり障りない文章を、抑揚もなく読み上げただけであり、あの顔は深刻そうな一方で、薄ら笑いをかみ殺しているようにも見えた、と書いた。

+++++

これは現在は削除された「心に青雲」というブログからの抜粋だが、幸い掲示板【阿修羅】に残されていた。

<http://www.asyura2.com/09/reki02/msg/499.html>

上記の記事をコピーして栗原氏に渡したが、別に感想を言ってくるわけでもなく、そのままになっている。

前置きが長くなったが、昨日の栗原氏の話で注目したのは、「君（皇室）」、「民（公を識り、実践している者）」、そして「臣（政府・霞ヶ関）」という三者間の関係だが、君と民は深い絆で結ばれているのに対して、昨今のガン末期症状の臣は、君とも民とも繋がっていないという栗原氏の指摘だった。だから、「心に青雲」氏が「宮内庁の官僚が作文した当たり障りない文章」と書いているのを読み、小生は思わず「笑いをかみ殺し」たのでした。

ともあれ、あのビデオメッセージを見て、「薄ら笑いをかみ殺しているようにも見えた」と捉えるのは、人それぞれだからどうでもいいことだけど、ここで君と民が如何に深く結び付いているかの証拠を示しておきたい。例えば以下の電話番号…

110

119

直ぐにピンと来るはずです。両番号とも緊急電話番号（警察と消防）です。

ここで、上記番号を歴代天皇に当てはめると…。110代が後光明天皇、119代が光格天皇となります。それぞれの天皇の時代背景見るに、たとえば後光明天皇の時代は最も治安が不安な時代であり、警察力を求めていた時代であったことがわかります。それ以外の番号、たとえば118なども調べて見ると、面白い発見があると思います…

ともあれ、110も119もその他の番号も、根底には「公」があり、それについて栗原は以下のよ

うに語っていました。

ツランの同胞のように日本に向かってくる集団もおれば、円高ということで海外に逃げる日本の企業もある。出て行きたい企業（人）は出ていけば良い。現況は1億3000万の日本国籍を持つ者たちに、どれだけ「公」があるかの踏み絵の場となっている。また、ここまでの事態（沖縄→広島→長崎→福島）にならぬと本来の日本に立ち帰ることができないことも確かである。

> うっかりスルーしてしまっていたのですが、古事記を研究する事が言霊を研究することであり、それが五十音の並べ替えにもなっていくものであるとするならば、外国語でこれを学んだのでは十分な理解は得られないのではないのでしょうか。ならば、アラスカのハーブ研修所には国籍はともかくとして日本人並みの日本語が使える人たちがいるということになります。となると、喧しくいわれている人工地震とハーブの関係もまた意味合いが違ってくるのではないのでしょうか。

流石は馬之助さん、鋭い…。しかし、この件に関してはこれ以上のコメントはご勘弁ください。

ただ、云えることは、日本語を母語とする我々こそが、各々の古事記を研究し、その成果を発表すべきだなと思っています。

> 「宇宙エコロジー」のp161のイラスト

画像にしてアップしました。

<http://www2.tba.t-com.ne.jp/dappan/board/fuller01.gif>

上図に対する小生のコメントは、もう暫くお待ちください。

163 : 馬之助:

2011/08/07 (Sun) 18:06:44

host:*.bbtec.net

サムライさん

> 馬之助さんも、皆さんも、そして小生も宇宙の摂理を知りたいという気持ちが強いと思いますし、今後死ぬまで探究を止めないと思いますが、この世とおさらばする時点でも、まさに九牛の一毛の真理を知ってあの世に旅発っていくのだらうなと思います。

「今後死ぬまで」、という言葉が出てきましたが、どうもそれはそう遠くない話かも知れませんね。浅川氏の本によると、ワイタハ族やマヤ族、ホピ族など古代からの祭祀を連綿と続けてきた部族の長老は、そろって後継者を育てていないのだそうです。皆さんどうやら自分の代でいままでの形態は終わっているというか、知っているようなのです。今後は個別の民族とその長は不要になるということのようです。私はその時には、九牛の一毛の真理を知るとともに、叡智の源に戻っていくというか、なにかがはっきりしてくるのではないかと妄想が止みません。つぎの世代に託す事なくそんなことが経験できるとすると、それはそれで面白いというか、すごい事だと思います。

> アラスカ州ガコナにハーブ研究所がありますが、そこで最も力を入れて研究しているのが古事記の研究だとのこと。

うっかりスルーしてしまっていました。古事記を研究する事が言霊を研究することであり、それが五十音の並べ替えにもなっていくものであるとするならば、外国語でこれを学んだのでは十分な理解は得られないのではないのでしょうか。ならば、アラスカのハーブ研修所には国籍はともかくとして日本人並みの日本語が使える人たちがいるということになります。となると、喧しくいわれている人工地震とハーブの関係もまた意味合いが違ってくるのではないのでしょうか。

>栗原氏作成の「●天之御柱と八尋殿 電気力線と磁力線が原子の電磁気圏を形成する図」

十分な理解が出来ないにしても、この図を見ているとフラーのジターバグのモデリングが思い浮かんで来ました。

「宇宙エコロジー」に「ベクトル平衡体（ジターバグ・システム）による対称的な収縮・拡大」という小見出しの後、「ジターバグは大きさのない、全方位的に脈動する核をもつモデルである。ベクトル平衡体を初期状態とするジターバグの変換システムは、大きさから独立した概念システムであるため、宇宙における法則の可視化が可能である。」とあります。言葉では説明しにくいので、「宇宙エコロジー」のp 161のイラストをみてもらうのが一番ですが、要はベクトル平衡体（6個の正方形と8個の正三角形による立方体）の北極と南極の三角形は陰陽の関係であって、それ以外の部分が時計回りまたは反時計回りに回旋しながら収縮と拡大を繰り返していくというものです。その過程でベクトル平衡体は、正二十面体、正八面体、その後も慣性によって正四面体へと、形態を変えていくというのです。その時の形態の変転が興味深くて、「たとえば、正四面体を単位とする場合、相対的な体積比はベクトル平衡体が20、正二十面体が18,51である。中性子の質量に対する電子の相対質量は1/18,51であるため、この比率は、新しい科学的発見を予感させるものである。正二十面体がみせかけの無理数をもったかなり重要な構造として存在するということは、正四面体を単位とする場合に有理数となる他のあらゆる数値（正八面体の体積は4、ベクトル平衡体は20、そして菱形十二面体は6、これらはいずれも美しい有理数である）に対してまったく対照的である。」とあります。単位というか、視点を変えると美しい有理数に変わる世界があるのですね。その中でこそ無理数が魅力的に感じられてくるようです。

162：原発廃止運動支持者：

2011/08/07 (Sun) 05:15:30

host:*.bbexcite.jp

>馬之助様

考え方は皆が其々違うので、全然いいと思います。そうですね、まだこの質問付近の事は最近特に重要だと思い始めたので、考えが纏まっていません。情報を探し、その共通点を考え合わせています。情報と言っても抽象的なものが多いですが、そこで類似の話が出た時は、自分の疑問点とその話との繋がりはどういう事かと考えるという段階です。

その質問部分については分かりかねるといった所かと思いました。有難う御座いました。

161：馬之助:

2011/08/06 (Sat) 23:35:02

host:*.bbtec.net

原発運動廃止支持者さん

あっさりサムライさんから振られてしまいましたが、私はみかんちゃんと同じノリなので、上手く質問に答えられそうにありません。

>プラトン立体と波動と共振の関係については、どのようにお考えになるのでしょうか。

フラーレン以外にも、粒子(量子・ニュートリノ・クォーク・光子その他)の波動や共振を起こしやすい形状はあるでしょうか。

それと、五角形準結晶についてどういう物があり、どのように考えになられますでしょうか。

質問をしながら、おそらく思考が回転しているようで、質問の内容が私のいった内容を飛び越え、さらに飛躍していっています。そこに、あふれるような情熱が感じられ、好感をおぼえるとともに羨ましくも感じられます。どうか、フラーの「クリティカル・パス」「宇宙エコロジー」を、その情熱で読んでみられることだと思います。また、「コズモグラフィ」という本は、さらに自分でモデリングをしながら独学できないようになってしまいました。その中に、量子モジュールという一連の話があって、これを理解されると国家プロジェクトクラスの設備の代わりに、紙とハサミと糊があれば、量子のモデリングから様々な研究ができると思います。昔はお茶や陶芸で身代を潰した人がいたようですが、モジュールに入ると身代を潰しかねないので要注意です。その頃の仲間が、アマゾンの同書のレビューを書いています。レビューと重複してしまいましたが、「コズモグラフィ」のなかで、フラーは次のように述べています。

同心円上に広がる完全な環状の波を繰り返し観察する場合、石ほど好都合なものはないだろう。まったく無対称な石を無造作に水中に投げ入れるだけでよいのである。構成単位となるひとつの〈存在 (something) 〉の実証には、一個の石があれば事足りる。

〈存在 (something) 〉の感じられない話は、つまらないです。

152 : 原発廃止運動支持者 :

2011/08/06 (Sat) 08:45:08

host:*.bbexcite.jp

>馬之助様

プラトン立体と波動と共振の関係については、どのようにお考えになるでしょうか。

フラーレン以外にも、粒子(量子・ニュートリノ・クォーク・光子その他)の波動や共振を起こしやすい形状はあるでしょうか。

それと、五角形準結晶についてどういう物があり、どのように考えになられますでしょうか。

147 : サムライ:

2011/08/05 (Fri) 16:40:56

host:*.t-com.ne.jp

皆様、今朝言及した栗原氏作成の「●天之御柱と八尋殿 電気力線と磁力線が原子の電磁気圏を形成する図」をアップしました。

<http://www2.tba.t-com.ne.jp/dappan/pic/kuri01.JPG>

現在、同図を理解するのに四苦八苦しており、人前で解説できる程度に達したら、ブログ【教育の原点を考える】に解説記事をアップしたいと考えています。

サムライ拝

146 : サムライ:

2011/08/05 (Fri) 07:22:44

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、お早うございます。

> サッカーボール状の形態をした分子なのですが、この構造と同じジオデシク・ドームをすでに現実化していたフラーに敬意を表して、バックミンスターフラーレンとしたようです。

今手許にないので題名が分からないのですが、昔フィボナッチ数列を調べていた時に入手した学研のシリーズの内の1冊、形の不思議について取り上げた本に、サッカーボール状の形をした分子のイラストが載っていたのを思い出します。それがフラーと繋がるとは凄い。手許にある『宇宙エコロジー』は未だ読み進めていませんが、今から楽しみ。

> 「バックミンスターフラーレンは、粒子と波動の二重性が実験的に観測された最大の物体である」といわれているようですが、20面体を3分割した分だけ、原型よりもフラーレンの方が大きいわけですね。粒子と波動の二重性の部分は栗原氏の古事記の解説にもシンクロしているかもしれません。

栗原氏の場合は、電磁波論をベースに以下のように書いています。これは栗原氏が、アッシリアからエジプト、ローマ、最終的に近代ヨーロッパに至る文明を、皇紀暦と古事記を主軸に描いた文明史論からの抜粋ですが、多分2~3年後に本になって発行されると思いますので、ご関心があれば一読ください。ただ、小生の場合、栗原氏の記事は幾度か読み返さないと理解できないし、未だに理解できない箇所が多々あります。それは兎も角、「バックミンスターフラーレン」から連想することは、ロケット発射基地です。日本の種子島、アメリカのフロリダなど、ロケットは地球上の何処からでも飛ばせるというわけではなく、ある特異点でしか打ち上げられないと栗原氏に聞いています。これが、「バックミンスターフラーレン」の三角形同士が接して点になっている箇所に相当するのではと思う次第です。

それにしても、人間や宇宙の深奥の謎について知りたいものの、今から数年前に藤原肇さんとお会いした時、「人間の知識なんて九牛の一毛にすぎない」と語っておられたのを思い出します。馬之助さんも、皆さんも、そして小生も宇宙の摂理を知りたいという気持ちが強いと思いますし、今後死ぬまで探究を止めないと思いますが、この世とおさらばする時点でも、まさに九牛の一毛の真理を知ってあの世に旅発っていくのだろうなと思います。

サムライ拝

通説ヘルツ論では電磁波の発生を電子の移動と解すが、正確を期すなら電子は電磁波にエネルギー化されたと補正すべきである。電子すなわち粒は波の停止状態ゆえに、両者が共存することはないが、本籍は同一だから光速二乗を超える速度で絶え間ない繰り返しの繰り返して止まない。流出と流入の循環サイクルで成る共振電磁波は、中心部へ集中したとき質量化するため物質の恒久化(こうきゅうか)を保全している。つまり、空間に生じる歪(ゆが)みは、陽と陰への分極を行ない、分極は異符号ゆえ引き合う力線の輪(わ)を発生させ、引き合う運動は追い掛け合う運動と同じだから、その回転は巴型エネルギー流の形成に働いている。その際の放出力線は二重螺旋の電磁波ゆえ、共振で生じるエネルギーは中和となり、中性子論を正せば物質組成の原動力と解しても差し障(さわ)りはない。

知ることをサイエンスといい、神は死んだという科学第一世代を科(とが)の学と訳した日本も今は遠い昔の話となり、知る権利を求めるジャーナリズムは何も知らないまま、みな独り神ならぬ私利私欲に狂いまくり、その身を隠すどころか、生まれる前から電磁波を浴びせ性別を見分けている。総てが総て現況を古事記に照らしてみれば、これみな「言先立ちに因りて良はず」ことに生ずるものゆえ、改め正すことに何ら厄介など必要とせず、知るを求め知ろうとしない媒体を厄払いすれば済む話でしかない。国の内外を問わない国際的な病原菌は、瞬時に広がる電子化社会に連れ、直ちに脳内へ障害をもたらすが、その電磁波障害の起因するところは、接合不全で成る交流回路の組成に原因があり、接合不全は人の挙動にも現われ、特に公金を扱う分野の交流回路は不治(ふち)の病と診断するほかない。公金は本来が抗菌力の強い分野に託されるべきである

が、補正必須(ひっす)のサイエンスにも気づかないレベルに託すため、不満を訴えても詮ない話となるだけ、そんなことより、未来を透かす古事記の本義に目覚めるほうが遙(はる)かに大きな成果が得られよう。

145 : 馬之助:

2011/08/02 (Tue) 22:09:59

host:*.bbtec.net

サムライさん

シンクロといえば、どなたかがフラーレンのことに言及していましたが、この分子式 C60 の球状分子の正式な名称を、なんとバックミンスターフラーレンと言います。サッカーボール状の形態をした分子なのですが、この構造と同じジオデシック・ドームをすでに現実化していたフラーに敬意を表して、バックミンスターフラーレンとしたようです。自然界で発見されるよりも先に、実用化に及んでいたのですから驚かすにはられません。

「謎のカタカムナ文明」に興味を覚えたのは、サムライさんが紹介していた目次に、「地球は12面体と20面体からできている」というのがあったからで、これはプラトン立体というのですが、同一の形をした面からなる立方体で球に内外接するものをいいます。たとえば12面体は正五角形12個からなる立方体、20面体は正三角形20個からなる立方体です。その他に、4面体(正三角形四個)、六面体(正方形六個)、八面体(正三角形八個)があります(『宇宙エコロジー』に出てくると思います)。で、この20面体がジオデシック・ドームの原型なのですが、一面をなす正三角形を分割していくごとに、大きな球体にする事が出来ます。例えば、正三角形の一边を二分する事でひとつの三角形は四つになり、20面体ですから20倍すると、80面体。一边を三分割すると三角形は9個になり180面体となります。分割しても三角形の一边の長さを変えなければ、ジオデシック・ドームはどんどん巨大化していくわけです。

20面体の各頂点は正三角形が5つ集まって出来ていますが、三分割していく時、分割したところで頂点を切ってしまうとその頂点だった部分は五角形になり、切り取られた三角形部分は六角形になります(文章では伝えにくいです)。それがサッカーボール、バックミンスターフラーレンです。

「バックミンスターフラーレンは、粒子と波動の二重性が実験的に観測された最大の物体である」といわれているようですが、20面体を3分割した分だけ、原型よりもフラーレンの方が大きいわけです。粒子と波動の二重性の部分は栗原氏の古事記の解説にもシンクロしているかもしれません。

>男柱(をばしら)と女柱(めばしら)の関係は、たとえば、男柱「あ」と女柱「わ」が結合(けつごう)のとき、第三の接合因子(せつごういんし)を要さず結合構造が成り立てば、大別「あわ」と「わあ」の結合体が生まれる。前者は明らかに「あ」と「わ」の音で成る結合体と聞こえようが、後者の音は延(の)びるほどに「わ」が「あ」の中に隠(こも)るため、第三者は「あ」の音しか聞こえず、実体を認識し得る存在は相互の因子だけでしかない。

イザナギノ命とイザナミノ命が国産みをする際に、イザナミノ命が先に言葉を発したためにうまく行かなかったのは、このためだという事ですね。「神名」は確かに「かな」ですし、こんなことに全く気が付かなかったわけですから、古事記にはそれとなく隠されたものが多くありそうですね。大野靖志著「言霊はこうして実現する」の中に、「言霊百神」という本が出てきて、「あおうえい」という並びで50音を並び替えもていました。古事記は少しづつ繰り返し読み重ねていこうと思います。

144 : サムライ:

2011/07/31 (Sun) 11:33:27

host:*.t-com.ne.jp

追伸

馬之助さん、浅川嘉富ですが、以下の本を同氏は書いておられますね。

『世界に散った龍蛇族よ！』

この本はヒカルランドという出版社で出しているのですが、ナント同じ出版社から藤原肇の『生命知の殿堂』が出版されます。このシンクロに驚いています。

143 : サムライ:

2011/07/31 (Sun) 09:02:56

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

> 古事記を読むと、サムライさんがまとめて下さっている百神（リストでは99で終わっているのはなぜでしょう）から後の話は、まことに人間味があるというか、人間臭くてそれ以前とは趣が異ったものを感じられます。

百柱と言葉では云っていますが、正確には99柱です。このあたり、栗原氏からも色々と教わっており、文書もありますので、本投稿の最後に一部引用しておきます。

古事記は誰でも自由に入手して読むことの出来る、“おおやけ”の書籍ですが、その書籍をどのように解釈するかは読者の数だけの様々な解釈があると思います。小生は、栗原氏の解釈を独学しながら、自分なりの血肉にするべく古事記を独学中です。

なを、栗原に言わせれば、「高天の原」は我々の銀河系の天の川を指しているとのこと。なるほど古来から古事記の研究家は天文学に強いようで、数年前に冥王星が惑星の地位を降ろされましたが、今から68年前、栗原氏の自宅には古事記研究家が幾人も訪れており、彼らが当時既に冥王星は惑星ではないことを見抜いていたと、当時は彼らの膝の上で遊んでいた栗原は、言っています。

また、アラスカ州ガコナにハーブ研究所がありますが、そこで最も力を入れて研究しているのが古事記の研究だとのこと。お恥ずかしながら、それだけの凄い情報が古事記に隠されているのかどうかは、まだピンと来ず、ある程度自信を持って古事記を語れるようになるまでには数年の時間が必要かなと思います。

追伸

フレー、漸く百柱ではなかった、百ページ目まで進みました。ワクワクしますね。

以上、金山毘古神から建速須佐之男命まで四九神は、霊言五〇音字の並べ方を説くものと、心得るのが筆者の感受するところであり、その霊言(たまこと)五〇音図が正確に定まれば、以後、展開される神話の事象を読む力量も備えられよう。それはさておき、これまでの神名(かな)を霊言五〇音字「あ」～「ん」に当てはめる意を決するためには、まず現代常用の「あいうえお」あるいは「あかさたなはまやらわ」という配列が本当に正しいのか、この問題を明らかに解かなければ意は決せられない。どうあれ、生命の営みは危険を背負う自己責任を免れないため、何ごとも安定を保つ心得が優先されなければ、何を学んだところで自然淘汰(しぜんとうた)の波に襲(おそ)われ、自ら朽ち果てる運命にさらされるほかない。

古事記は天災・人災の如何(いかん)を問わず、危険を見抜く力を高め、安定を保つ心得を導く書であり、それは危険が多発する地ほど役立つ機能性を有する。さて霊言五〇音字であるが、前神一七柱の神名が表われる段を一括り(ひとくくり)と仮定し、天神三柱・同二柱、上神二柱・対神一〇柱の時空に鑑み(かんが)ると、対神以外は独神その身は隠しても神名は明らか、その次元も段階も明らかにされている。まず対神二柱で一代(ひとよ)と数える教えに順え(したが)ば、仮に男柱(をばしら)「あ行」と女柱(めばしら)「わ行」に持ち分け、その時空五代(いつよ)は男柱・女柱とも五段階で一括りが素直な捉え方となろう。問題は現代常用の「あいうえお」という五段階の順に欠陥があり、先に結論だけ示しておく「あおうえい」の順でなければ霊言の本義は活かされない。

男柱(をばしら)と女柱(めばしら)の関係は、たとえば、男柱「あ」と女柱「わ」が結合(けつごう)のとき、第三の接合因子(せつごういんし)を要さず結合構造が成り立てば、大別「あわ」と「わあ」の結合体が生まれる。前者は明らかに「あ」と「わ」の音で成る結合体と聞こえようが、後者の音は延(の)びるほどに「わ」が「あ」の中に隠(こも)るため、第三者は「あ」の音しか聞こえず、実体を認識し得る存在は相互の因子だけでしかない。つまり古事記は初め高天原に成る天神三柱を独神その身を隠すといい、次二柱も同じとしつつ、その成りませる生(おい立(た)ち)を示し、のち上神二柱も同じとしつつ、その時空は各々(おのおの)一代すなわち神世二代とし、対神一〇柱は神世五代すなわち霊言(たまこと)に五段階の時空あることを示し、物質一対・物性一対その隠り音(こもりおん)の重大性を説いている。

今や物質一対・物性一対の原義は波長と波形で示す時代となり、その波長と波形は音が持つ波すなわち電磁波(でんじは)ゆえ、電磁波の原義が分かれば、音波(おんぱ)を文字(もんじ)に置き換えることも難しくはない。つまり、電磁波の構造は電気力線(でんきりきせん)と磁力線(じりょくせん)で成る合成波(ごうせい)ゆえに、波(音)が止まれば粒(文字)で粒が動けば波という物質物性の法則により、普通波(ふつうは)と共振波(きょうしんは)の二通りが生じるため、その運動作用に三種の現象が現われる。まず共振波と共振波は反発し合うので反引力が生まれ、また普通波と普通波は交差に際し電気力線と磁力線が衝突するので静電気が生まれ、さらに共振波と普通波は引き合うので引力が生まれる。

前記「あわ」は反引力・前記「わあ」は引力の働きが主体だから、その配置すべき置き所を定めるとき静電気発生(せいでんき)の原義に十分な配意(はいい)が求められる。さらに重要なことは独神それが身を隠すという意味が何を訴えているのか、波が止まれば粒で粒が動けば波という原義に基づけば、音波の働きは平面運動(へいめんうんどう)にあらず立体運動(りていうんどう)であるため、単なる平面の盤上(ばんじょう)に粒すなわち文字を並べて済ませる問題ではない。神を柱という単位で表わす古事記の意図は、明らかな立体構造を示しており、文字一つ一つが結合するとき、その接合因子を数える単位は何であるのか、たとえばヌクレオチドのように、遺伝情報物質(いでんじほうぶつ)の核酸(かくさん)を構成する単位指数(たんいしすう)もあり、その場合は塩基(えんき)や糖(とう)やリン酸(りんさん)の物性を知る必要が求められる。

これら意の理を説くと難しく感じられようが、それは愚かな知覚(ちかく)に毒(どく)さているため、個々に有しているエネルギーが機能停止(きんごんていし)に陥(おと)っているだけ、自ら朽ち果てる運命(うんめい)にさらされても仕方あるまい。日常生活に伴う危険を安全に導こうと思うなら、これまで出揃った神名五〇音字(青色で表記)と、美神と岐神とが別個に生み出した神名四九音字(桃色で表記)を十分に認識し、神名一つ一つに託された性質の捉え方を自力で開発(かいはつ)のうえ、その並べ方を繰り返し行なう日常性が重要となろう。習性(しゅうせい)は第二の天性(てんせい)という誤訳(ごやく)は知(ち)の思惑(しぼく)にすぎないため、正(ただ)すを知らず、真(ま)の天性(てんせい)は古事記に啓(ひら)かれていたのだ。

142 : 馬之助:

2011/07/30 (Sat) 13:55:40

host:*.nttnc.ne.jp

サムライさん

>着実にロードマップ通りに事は推移(推移)しています。そのあたりは、実は3 1 1前に発行された皇室カレンダーと1月の歌会始の儀(ぎ)にあります。

それを漏れ聞くことが出来、安心しました。この国家存亡の危機と騒がれている時に、御製を口ずさみながら、ロードマップを想像し、国の行く末に想いを馳せるのは、典雅な感じもして楽しいです。

あけぼのすぎの話は、年頭にサムライさんのブログで読んで、感銘を受けた覚えがあります。いよいよというか、閉塞感の向こうに道が見えたように感じたものです。

古事記を読むと、サムライさんがまとめて下さっている百神（リストでは99で終わっているのはなぜでしょう）から後の話は、まことに人間味があるというか、人間臭くてそれ以前とは趣が異ったものを感じられます。まるで昔の神話でありながら、現代のこともようでもあり、未来のこともありそうです。スケールも、個人の心の模様とも取れるし、身近な人間関係や社会、日本や世界、それ以上のものとも受け取れます。また、ことあるごとに八百万の神々が協議をしたり、高天原や根の国、綿津見の国など、他の国の大神から手だてを教わったりで、ツランが集まってきているということに通じるのかも知れないと愚考したりしています。特に最後の、綿津見の国の大神からホフリノ命が、塩盈球と塩乾球をもらって理不尽な兄ホデリノ命を懲らしめるところは、ワイタハ族がこれから水の時代に入って、水による洗礼が始まるということに通じるようですし、「欲得にまみれたものが、素に戻って頭を下げる」ということは有り得ないとなると、この辺りから手だてをいただかないとならないのではないかと妄想はつきません。

浅川氏の本で引用されていた、春木秀映・春木伸哉著「青年地球誕生-いま蘇る弊立神宮-」を読んでいます。古事記には登場しない、神漏岐命と神漏美命が大祓では冒頭から出て来ますが、この二柱の大御名がアソヒノオオカミとあって、それが神代文字で弊立神宮に伝わる石板に彫られているのだそうです。主祭神は五柱で、残りは、大宇宙大和神（神代七世の初代）、天御中主大神（天神七代の初代）、天照大神（地神五代の初代）です（私には、神代七世というのも地神が五代あるというのも分かりません）。その神が天神木に宿っていて、その檜には一万五千年の命脈があるそうです。現に周辺の土地からは、旧石器時代の石器が出土しているようです。

感銘した箇所は多々あるのですが、ふたつだけ引用しておきます。

「人間一人ひとり、未完の神器であります。未完の神器の本質を引き出すには師を持つことです。古今、最上の人物は天を師とすると言われていました。」

「人間の心というものは、天地・自然が人間を通して創造したものです。天地自然は、長い間かかって動植物をつくり、今から約五十万年前人間を作りました。そして、その人間に心を成長させる機能を与え、人間に万物の霊長たる期待を込めてきました。

したがって、人間が心を持っているということは、天地の中に心が存在しているということで、この天地の心に合った生き方をすることが人間の存在意義であります。

天地は、人間の心の生みの親であり、心の教師でありますから、天地のために心を成長させていくことが自然の摂理に沿ったものです。」

140 : サムライ:

2011/07/28 (Thu) 10:09:14

host:*.t-com.ne.jp

昨日の飯山さんがHPで、「20年後…、日本列島の中央部分（東北・関東・中部）は、放射性物質が積もりに積もって、人が住める場所ではなくなるどころか、人が死に絶え無人の荒野になる…」と予言している。この予言の是非は兎も角、一昨日栗原茂氏に会った時に、以下のようなことを聞いた。

「ローマはギリシアに遡り、ギリシアは青銅器時代に遡り、青銅器時代は鉄器時代に遡る。そして鉄と云えばヒッタイトだが、では、その鉄は何処から来ているか。日本の東北である」

“一般常識”では、青銅器時代の後に鉄器時代が来たことになっているのに、栗原氏の発言では順序が逆になっている。どうしたことだろう…？ ちなみに、手許の三省堂の『大辞林』では以下のように定義している。

=====

【青銅器時代】考古学上の時代区分の一。青銅器を主要器具としていた時代で、石器時代と鉄器時代との間に位置する。西アジアでは紀元前三千年頃に始まり、中国では殷周代がこれにあたる。日本では弥生時代に鉄器と青銅器がほぼ同時に移入され、特に青銅器時代は認められない。

=====

つまり、日本では弥生時代に大陸から鉄器と青銅器をほぼ同時期に導入した書いているのだけど、栗原流史観では鉄器時代が先に有りなのだろう。すると、彗星の如く突然歴史に登場し、かつ瞬く間に歴史から消えた鉄の民・ヒッタイトって何者だったのか、興味は尽きない。

139 : サムライ:

2011/07/28 (Thu) 07:07:48

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、お早うございます。当方も近所で不幸があったり、上京したり、本業に追われたりと忙しくしていました。

> 現在の状況で、政体が元来の国体に含まれるものに戻るということは、政体の側から、失礼しました、お戻しいたしますと、お願いするしかないように感じています。利権に溺れ、欲得にまみれたものが、素に戻って頭を下げるには、よっぽどのことがないといけないのではないのでしょうか？

実は、一昨日も東京で栗原氏に会い、そのあたりも話には出ましたが、小生が理解する範囲においては、「欲得にまみれたものが、素に戻って頭を下げる」ということは有り得ないと、つくづく思ったことでした。

ともあれ、此处では公開できない国体の動きを栗原氏から教わりました。そうした栗原の話信頼するとすれば、着実にロードマップ通りに事は推移しています。そのあたりは、実は311前に発行された皇室カレンダーと1月の歌会始の儀にあります。ご参考までに御製と御歌のみを以下に転載しますので、後は推測して戴ければ幸いです。

【昭和天皇御製】（皇紀2671年度版カレンダー）

わが国のたちなほり来し年々にあけぼのすぎの木はのびにけり

あたたかき卯月の庭の桜花ふる春雨にさきみちにけり

たちなほれるこの建物に外つ国のまれびとを迎へむ時はきにけり

世に出すと那須の草木の書編みて紙のたふときことも知りにき

わが庭の初穂ささげて来む年のみのりいのりつ五十鈴の宮に

ボーイスカウトのキャンプにくははりし時の話浩宮より聞きしことあり

【歌会始の儀】（皇紀2671年）

天皇陛下

五十年（いそとせ）の祝ひの年に共に蒔きし白樺の葉に暑き日の射す

皇后陛下

おほかたの枯葉は枝に残りつつ今日まんさくの花ひとつ咲く

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2011/01/index.html>

あけぼのすぎ

御製・御歌は、単に天皇皇后陛下のお歌というだけではなく、其処に深い意味が籠められていることに気付けば、臆気ながらロードマップも透けて見えてくると思います。詳細を公開できないのは残念です。

136：馬之助：

2011/07/25 (Mon) 18:44:31

host:*.bbtec.net

サムライさん

ここ三日ほど、パソコンの前にゆっくり座っていることができなくて失礼しています。

道元の「正法眼蔵」の一節に、たしか「天分は人人（にんにん）の分上にゆたかにそなわれりといえども…」（どこに出ていたか見当たらないので怪しくなってきました）修証しなければ得ることはないといっています。その修証の場が日々の現実として整えられているように思います。そのために避けられようもない出来事が様々に起こり、畢竟して如何、と迫ってくるのです。しかも、人々の分上においてですから、人それぞれの器に合わせて、かけがえのない現実としてそれはあるのです。その時どうするか、それが問われているわけで、ギリギリのところでは私たちはギリギリの、ひとり私としての選択をせざるを得ないのです。ここに私（わたくし）が問われ、この段階で選択というものがあるのだと思います。その選択は分上のものである以上、他人がとやかくいえるものではありませんが、忘れてならないのは、それ以前に、すでに天分はゆたかにそなわっているということです。それを先人たちが伝えようとして、さまざまなものを残しておいてくれるし、一部の人たちはそこに目を向けないようにさせるためにいろいろ仕掛けています。とはいえ、それを現実においてしかできないのが、整えられた現実として面白いのです。

> こういう話を聞くと、互いに直に会い、一度栗原、馬之助さん、小生の三人で膝を突き合わせて語り合えば、かなりヒートする気がしてきました。

仏法を情報やツールとして理解しようとする向きもあるようですが、それを自らの血や肉としていこうとする場合には、師が必要となるようです。だから、師のない仏法はないといわれています。古事記に関しては（仏法に関してですが）、私が語り得ることはありませんが、いままでサムライさんの口から語られた、栗原氏のような方のお話を直接おうかがいできる機会があるならば、馳せ参じたいと思います。本から得られるものは限られたもので、直接その人にお会いし、その人を感じ、直に言葉を聞くことに勝るものはないと思っています。

> 実は、「本来の国体が政（まつりごと、祭祀）を含むものとしてあればいい」というロードマップを、皇統奉公衆が中心になって作成し、実行中であると、皇室インナーサークルの栗原から

直に聞いています。

古事記を読むと、おぼろげながらも不思議とそのロードマップのようなものが、見えて来るような気がしてきます。しかし、現在の状況で、政体が元来の国体に含まれるものに戻るということは、政体の側から、失礼しました、お戻しいたしますと、願うしかないように感じています。利権に溺れ、欲得にまみれたものが、素に戻って頭を下げるには、よっぽどのことがないといけないのではないのでしょうか？

134 : サムライ:

2011/07/21 (Thu) 07:23:16

host:*t-com.ne.jp

(レディファーストということで…) ひろみさん、

この掲示板も、“女性版”フーテンの寅さん登場で賑やかになってきましたね。それにしても、ひろみさんのことばに対する鋭い感覚、いつも勉強になります…。で、思い出したのですが、ひろみさんのブログに出した栗原茂氏の宿題、「ダムは日本語である」という謎は、解けたんでしたっけ…？

馬之助さん、

> 「謎のカタカムナ文明」、おもしろく読ませていただきました。

あの本は絶版なのに、よく手に入りましたね。さて、以下の馬之助さんの御言葉…

栗原茂氏の古事記の解説に言霊というのがありましたが、私の中には言霊というイメージがなくて、大野靖志著「言霊はこうして実現する」という本が出た時、妙に気になって読んでみました（つづいて「天皇祭祀を司っていた伯家神道」も読んでいます）。それが、私が神道や古事記に触れたはじめとっていいかも知れません。ここでは言霊という側面から古事記を読み解いているようです。巻末に、伯家神道の祓詞が公開されていて、私にはこれしか手掛かりがないので、自分なりに奏上してみることになりました（後に切り火をし、伯家神道の作法に準じました）。今年の秋頃の話です。禊祓いのなかに、十神が出て来るのですが、それが、イザナギノ命が黄泉の国から戻ったときの川での禊の場面で登場する神であることや、前後の経緯が今回古事記を読んで理解できました。禊祓いのあとで誓願をするのですが、これが厄介でなかなか「私」から離れられないで（ついでに利益を求めてしまうのです）悪戦苦闘しました。最近になって、やっとただやるという感じと、物事を自己を離れてより俯瞰的な視点でみるという感じもするようになってきました。それで、天皇陛下や国体というものを身近なものとして素直に捉えられるようになったのだと思います。

こういう話を聞くと、互いに直に会い、一度栗原、馬之助さん、小生の三人で膝を突き合わせて語り合えば、かなりヒートする気がしてきました。上記の行をコピーして、今度栗原に会ったら渡しておきます。

禊祓いで思い出しましたが、311がなければ今夏は北海道のオンネトーと云う、阿寒湖の東南10kmにある湖に栗原や仲間と行くはずでした。この湖はアイヌ語で「年老いた沼」を意味し、シャーマンの世界における禊祓（みそぎはらえ）の聖地です。実際に聖地で禊祓を体験して、初めて五感全体で分かってくるものがあると思って行くつもりでいたのですが、残念です。

馬之助さんの場合、禊祓いと誓願を通じて「天皇陛下や国体というものを身近なものとして

素直に捉えられるようになった」に達したようですが、小生の場合、栗原茂氏や山浦（嘉久）氏らを通じて同じ境地に達することができたのだと思います。

> 九州阿蘇に弊立神宮というのがあって、応神天皇の時代勃発した内乱のために自ら隠れ宮となった、

浅川嘉富という名前と著作については知識としてはありましたが、同氏の本は未だ読んだことはありません。浅川氏ではありませんが、確か古代史研究家で古代阿蘇について私家版を出した方がおり、購入しようと思ったものの、結局購入もせずにすっかり忘れていましたが、今回“阿蘇”という言葉から再び当時の記憶が蘇りました。件の古代阿蘇研究家の話題が出た掲示板は、多分「藤原肇の宇宙巡礼」だったろうという曖昧な記憶しかありません。また、阿蘇と云えば、渡辺豊和氏の『ヤマタイ国は阿蘇にあった』（カッパ・サイエンス）を思い出します。

> 問題は、政体が政（まつりごと、祭祀）から離れていったことであり、自分に属すものではないものを支配しようとすることであって、本来の国体が政（まつりごと、祭祀）を含むものとしてあればいいように思います。

詳細は書くわけにはいきませんが、実は、「本来の国体が政（まつりごと、祭祀）を含むものとしてあればいい」というロードマップを、皇統奉公衆が中心になって作成し、実行中であると、皇室インナーサークルの栗原から直に聞いています。

130：馬之助：

2011/07/19 (Tue) 07:06:57

host:*.bbtec.net

サムライさん

紹介されていた「謎のカタカムナ文明」、おもしろく読ませていただきました。で、今回はオカルト・サイエンスっぽいはなしになりそうです。

栗原茂氏の古事記の解説に言霊というのがありましたが、私の中には言霊というイメージがなく、大野靖志著「言霊はこうして実現する」という本が出た時、妙に気になって読んでみました（つづいて「天皇祭祀を司っていた伯家神道」も読んでいます）。それが、私が神道や古事記に触れたはじめとっていいかも知れません。ここでは言霊という側面から古事記を読み解いているようです。巻末に、伯家神道の祓詞が公開されていて、私にはこれしか手掛かりがないので、自分なりに奏上してみることにしました（後に切り火をし、伯家神道の作法に準じました）。昨年の秋頃の話です。禊祓いのなかに、十神が出て来るのですが、それが、イザナギノ命が黄泉の国から戻ったときの川での禊の場面で登場する神であることや、前後の経緯が今回古事記を読んで理解できました。禊祓いのあとで誓願をするのですが、これが厄介でなかなか「私」から離れられないで（ついでに利益を求めてしまうのです）悪戦苦闘しました。最近になって、やっとただやるといふ感じと、物事を自己を離れてより俯瞰的な視点でみるという感じもするようになってきました。それで、天皇陛下や国体というものを身近なものとして素直に捉えられるようになったのだと思います。

浅川嘉富という人の著作を何冊か読んでいますが、この人いままで古事記や神道のことには触れたことがなかったのに、最近の著作（「龍蛇族の日本人よ！」「世界に散った龍蛇族よ！」）でそういう世界に入っています。（自分のことは棚に上げて）それがなんだか胡散臭い感じがし

て、なかなか読む気になれなかったのですが、実際読んでみると非常に面白いのですが、九州阿蘇に弊立神宮というのがあって、応神天皇の時代勃発した内乱のために自ら隠れ宮となった、要はお隠れになっていたそうです。ところが、官司が神示を受けて、1995年から表に出て五色神祭を再開したところ世界中から参加者があるというのです。この神宮には五色の神面が伝えられているということです。

いろいろ調べているうちに、浅川氏は龍蛇族と呼んでいるのですが、日本人はその直系で、そのトップが日本のスメラミコトであるという結論に達したようです。この人の面白さは、そういう人物に引きつけられて行くことです。その流れで、ニュージーランドのワイタハ族の長と出逢って、その地まで行って様々な祈りのセレモニーを行なっています。ワイタハ族は、今年の初めに時代が変わったとかで、それで浅川氏を通して日本人にも関係のあるその素性を表に出して来たと言うことです。ワイタハ族は、シリウスにつながる歴史やレムリア文明からの教えを今もなお保持していて、1924年には先代の族長が来日して天皇陛下に謁見した際に、それを伝えているというのです。

本のなかに、「人間は創造主に属し、その守護霊たる龍族は神界に属する」というのがあって、妙に納得がいきました。サムライさんは以前、「日本の政体は既に死に体ですので、それができるのは国体です」といわれていましたが、人間が創造主に属するように、私たち国民は国体に属するものであって、政体に属するものではないのですね。国民の無知がとやかく言われていますが、問題は、政体が政（まつりごと、祭祀）から離れていったことであり、自分に属するものではないものを支配しようとするものであって、本来の国体が政（まつりごと、祭祀）を含むものとしてあればいいように思います。国民が国民の無知云々を問題にしてしまえば、国民間で分断されてしまって、国体と繋がって行くことさえ出来ないのではないのでしょうか。

123 : サムライ:

2011/07/15 (Fri) 13:19:49

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、今年は例年になく梅雨明けが早く、以降は連日猛暑が続いています。小生、秩父山地の麓に居を構えています。今日は比較的涼しい早朝だったので、庭の手入れ、風呂場の箒の子の掃除・乾燥など済ませましたが、終わったのが未だ8時前というのに大粒の汗でした。

さて、フラワーの『クリティカル・パス』を、『倭国創生と阿波忌部』など、他の書籍と並行して毎晩読んでいますが、猛暑も手伝って中々進みません。それは兎も角、フラワーが書いているという働き蜂の行まで未だ読み進んでいませんが、馬之助さんのフラワーの話を読んで働き蜂の行が楽しみになりました。

> 自分は考えているのだと自己を主張しようとするあまり、結局はライフスタイルが少し違うくらいで、みんなでせつせとはたらき蜂という訳です（私は自分の考えという奴に非常に慎重になっています、なぜなら自分の考えとして表に出したものの裏側に損得勘定が潜んでいることが、私の場合、非常に多いからです）

そのあたりは小生も同感で、色々とブログや掲示板で述べても、必ず先人が居るものであり、だから分かる範囲で引用先なりを明示するようにしています。逆に、他人が汗水垂らして、時には命を賭けて得た貴重な情報を、恰も自分の情報なり意見のように云う輩を幾人か知っていますが、こういうのは許せんし尊敬も出来ないなあ…。

> 日本人は損をしてきたといわれるけど、それを損と思わないのが日本人で、気概がないとか主張がないとか奴隷とかともいわれますが、それは、日本人は宇宙の主作用を生きているからなのではないのかと思うのです。

なんか、公に結びつきそうな話です。

> 古事記をゆっくり読んでいますが、のっけから神がお隠れになっていて、姿を見せることがないというのは、呆気にとられるというか、欧米人（一神教）には及びのつかない考え方ではないかと思えます。

古事記は万人に公開されているだけに、読者の数だけの古事記観がありそうです。皇室インナーサークルの栗原茂は、百柱まで暗唱できれば良いと云っており、簡単な解説も書いています。以下は一部ですがご参考まで。何れ、ブログ【教育の原点を考える】で公開するつもりです。

別(こと)天神五柱・上神二(かみつかみ)柱・対神一(ついのかみ)〇柱すなわち計一七柱まず生まれ、うち天神みな独神にして身(みみ)を隠したまひき、上神もまた独神にして身を隠したまひき、上神と対神を合わせて神世(かみよ)七代(ななよ)といい、ここに天神は諸々の命を(みこと)もち、漂へる國を修理(つく)り固め成す操作へ事をはこぶ。天沼矛により、淤能碁呂嶋が生まれ男女二柱による「みとのまぐはひ」に進み、女が言先(ことさき)だち水蛭子(ひるこ)と淡嶋(あはしま)が生まれ子(みこ)良(ふさ)はず、岐神(きのかみ)と美神(みのかみ)は自ら天神の御所(みもと)に参ひ上(のぼ)り、天神の命に順い還り降り、再び「みとのまぐはひ」ここに一四嶋(とよのしま)が生まれ、以後三三神が生まれ、神五〇柱が出揃うが、古事記は嶋壹拾肆嶋(しまとをまりよしま)また神参拾伍神と(かみみちまりいつはしら)述べる。つまり、天沼矛が作る淤能碁呂嶋を除く一四嶋と、大事忍男神から火之夜藝速男神までの三三神が三五神とされる理由とは何なのか、世に理屈は幾らでも説かれている。それは神世七代の数え方にしても同じこと、簡単に通説を受け容れる安易に筆者は従えず、ただ古事記を暗誦すれば良いとも思わない。

言霊論(ことたまろん)にしても同じ、ここに筆者は天神・上神・対神の一七神を前神と(まへのかみ)仮称し、岐神と美神の共同操作で生まれた三三神を後神と(あとのかみ)仮称するが、美神は火之神を出産して生殖器が使えなくなり、以後、生まれる神々は美神また岐神が別個に生み出す神々である。どうあれ、古事記上巻に登場する神々は音字「あ」に始まる日本語の意を含んでおり、前神一七と後神三三の計五〇音字が基礎となり、その本義を解くことで現世の危険が消えるなら、それは何ものにも優る資源となりえよう。問題は出揃った霊言五〇音字を整え並べることにあり、その時代ごとに先人も研究しており、それは必ずしも完成とはいえず、いまだ日常の危険は増えても減る現実は得られない。

現時点の筆者は「あ行」と「わ行」の「う」を同義とし、また「や行」の「yi」と「ye」は交流回路に生じる移相と捉えているが、移相とは交流の電圧・電流を変化させる位相と訳され、この訳し方に順うと音字盤「ん」の上に霊言一つ一つを並べる法にも活路が開かれる。つまり、霊言一つ一つには、電磁体の波長・波形と同じエネルギーがあり、それは元素周期表の原子にも通じることゆえ、電子化を進めている現在と未来を透かす重大なヒントが得られよう。ここに筆者が古事記上巻を書き直す意味があり、それを舎人に提供することにより、舎人の叡智を浮かび上がらせたいと念ずる気が働くのだ。

118 : 馬之助 :

2011/07/13 (Wed) 06:33:18

host:*.bbtec.net

サムライさん

過分なお言葉をいただき恐縮です。でも、ほんとに人間は五十歩百歩ですね。というか、百歩百歩になって行くのではないかという気持ちがあります。だから、ゆったりやっていた方がいいのかもしれないですね。

でも、このスレッドを立てたヨシさんの寛大さや、ほとんどネガティブな書き込みがないところからすると、飯山さんの掲示板自体が公として機能しているように思います。

フラーの面白いところは、人工物というのは結局はないのだというような感覚だと思います。プリセッションの説明のところで、フラーは働きバチを例にしています。自虐的な含みがあるのかも知れませんが、本人もそれを気に入っているような感じです（その辺りが私は好きです）。働きバチは、蜂蜜をせっせと集めるのが自分の仕事だと、おそらくは思って一生懸命に働いているのですが、宇宙にとっては受粉させることが主作用であって、蜂蜜はハチにせっせと働かせるためのものであって宇宙にとっては副作用なんですね。主作用だと思ってハチが集めた蜂蜜は、人間が最終的に集めにきたりして、結局はハチではなく人間の主作用だったりするのですが、それすらも宇宙にとっては主作用の受粉のための副作用だったりする訳です。宇宙によって必ず成し遂げられる主作用の働きを、フラーはプリセッションと呼んでいます。（それは人知の及ばないもの）で、どうせ仕事をするのだったら、副作用ではなくて主作用のほうをやろうと、フラーは考えるのです。なぜなら、それが宇宙にとっての主作用であるならば、必ず成し遂げられる（人間にとっては成功する）からです。フラーはいいます「それゆえ、私は自然に身を委ね、私が発明した環境に寄与する人工物を実現する物理的方法を自然が授けてくれることに頼らなければならなかった」。そのために、大勢の人のためにか、生活費を稼ごうとしないとかいうのですが、すべてを宇宙に任せているようにも見える、この流れのどこに自分と言う存在があるのでしょうか。人が作るから人工物とはいうのでしょうか、そのために自然に身を委ね、自然が授けてくれることに頼るのです。この辺が、フラーの面白さなのですが、現代の社会ではこれを自分がないとか、自分の考えがないとかいったりするのです。で、自分は考えているのだと自己を主張しようとするあまり、結局はライフスタイルが少し違うくらいで、みんなでせっせとはたらき蜂という訳です（私は自分の考えという奴に非常に慎重になっています、なぜなら自分の考えとして表に出したものの裏側に損得勘定が潜んでいることが、私の場合、非常に多いからです）。だから、決して他人事ではないところが、フラーの自虐っぽい感じに共感する所以なのです。

このプリセッションに主体をおいた生き方をするのは、フラーは自分をはじめではないかという、その本質を理解するのは非常に難しいといっています。梶川氏もフラーは1000万人に1人くらいしか理解できないのではないかと書いています。でもこれって、日本民族には馴染みのあるやり方、生き方ではないかという気がします。1000万人に1人というのも、欧米人はそうかも知れませんが、日本人は違うのではないかと。この辺をうまく利用されて（というか、うまくかみ合ってしまった）日本人は損をしてきたといわれるけど、それを損と思わないのが日本人で、気概がないとか主張がないとか奴隷とかともいわれますが、それは、日本人は宇宙の主作用を生きているからなのではないのかと思うのです。

人間が作り出したお金もそのはずです。日銀がアメリカの手先だとか言われています（経済のことはあまり知らない私です）が、欧米の逆のポジションにたって一見損をしてるようみえて、バランスを支えるという意味でも、結構面白いことをやっているような気がしてきました。それを損と思わないのが日本人で、そういう日本民族（ツランといってもいいのかもしれませんが）によって無意識下では支持されているのではないのでしょうか。

古事記をゆっくり読んでいますが、のっけから神がお隠れになっていて、姿を見せることがないというのは、呆気にとられるというか、欧米人（一神教）には及びのつかない考え方ではないかと思えます。

112 : サムライ:

2011/07/10 (Sun) 06:58:54

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん

>それをいつの間にか出来なくしているのが、もしかしたら、お金という存在ではないかと思うようになりました。

実は月に一回ですが、現役の銀行マンであり金融評論家でもある安西正鷹氏を、仲間数名で囲んで「お金」について学んでいます。そのあたり一部をウェブで公開していますので参照してください。

<http://michi01.com/okane.html>

この集いには『世界権力構造の秘密 富と権力の強奪史』（ユースタス・マリンズ著）を翻訳した、天童竺丸氏も参加しており、大変興味深い「お金」の話（ブレーンストーミング）となっています。大手出版社も安西氏の「お金」の記事に注目しているとのことで、もしかしたら書籍の形で一般公開されるかもしれません。

ともあれ、小生が安西氏や天童氏の話に耳を傾けながら思ったことは、「お金」とは天才的な詐欺師が発明したものということです。その欺瞞性に気付きつつある人が、馬之助さんをはじめとして少しずつ増えていくと思います。

> 私たちなりの公のために生きるということもあるのですよね、

このスレッドでの馬之助さんの数々の発言も、他の大勢の人たちに公というものを考えさせる、切っ掛けとなっていると確信しており、それだけで素晴らしい「公」という行為だと思います。同様の意味で、別のスレッドで書いた鹿沼の野州麻紙工房の大森さんの活動も、まさに「公」そのものと云えるのではないのでしょうか。ともあれ、人間は五十歩百歩、そんなに一人一人は大差ないのですから、無理をせずポチポチ歩みを進めていませう。

111：馬之助：

2011/07/08 (Fri) 23:24:39

host:*bbtec.net

サムライさん

自然と人工について簡潔な説明の映像をありがとうございます。

フラーは自然には「汚染」はないと言っています。「この汚染という言葉は、他人をかえりみず利己的に利益だけを求める人間によって誤った場所に放出され、本当の化学物質の存在に無知な人々によってねつ造された言葉なのである。」

サムライさんも指摘されていた「私利私欲といった私」のように、「他人をかえりみず利己的に利益だけを求める人間」というのが問題点だと思います。

> 陛下の国民を思う気持ちは以下の御製にも如実に顕れており、今日に至って綿々と引き継がれている大御心と云えると思います。

今上陛下の命を捨てる覚悟と、周囲の皇統奉公衆の有り様に深い繋がりを感じないではいられませんが、これは昔風の親と子の関係で考えれば理解しやすいのかも知れません。子の前に命を投げ出す親の姿は、あまりにも自然な行いだと思います。ただ、親の心、子知らずとは、やはり昔からいわれることで、このスレッドのテーマである海外移住も、複雑なところがあるのではないのでしょうか。命を投げだしている天皇陛下に対して、子とはいいながら、大人でもある私たちはどう行動していけばいいのでしょうか。天皇陛下のお姿のように、人としての気持ちを前面に出して行動するのが、もしかしたら、昔気質の日本人のあまりにも自然な心根なのかも知れません。

それをいつの間にか出来なくしているのが、もしかしたら、お金という存在ではないかと思

うようになりました。

良い悪いは別にして、居住している場所を捨てて、海外どころか国内にさえすぐには移動できないのは、結局はお金にその原因があるのではないかと徐々に思うようになってきました。皇統奉公衆が日本に集結して行動を始めたのが5年前ではないかという話でしたが、そのころからお金の姿が目につくようになったように思います。考えてみれば、子どもを含め放射能に日々曝されているのがわかっていながら何もできない。その原因が、生活を支える元としての会社、将来の利益を左右すると考えるこどもの学校、汚染された場所に家族を縛らざるをえない住まいのローン、何もしてくれないと知らされたにもかかわらず義務だと思ふ税金や理不尽な公共料金等の様々な支払い。お金に関することを家族の命よりも優先させてしまっている。国も非常時に早急にやるべきことの前に財源や増税を問題にし、世間でもそれに苦情を呈しながらもなんとなく受け入れてしまっている。みんな揃いも揃ってどうかしてしまったのでしょうか。これはとにかく異常なことです。お金というのは、人の生命を縛る種類のものなのでしょうか。お金に対する価値観がいつの間にか変質していて、それが多くの人々の生命を脅かしている。お金がいつのまにか支配の道具としてしか機能しなくなっていることが、ここ数年の間に露呈してきているように思います。

意識が覚醒してくるとともに、自明なものがそのまま自明のことと分かってくるといいます。底流に分からないこととしてあったものが表面化してきている5年間ではないでしょうか。これは平面幾何学的なお金の有り様だと思えます。こんなものは徹底的に露呈して崩壊してしまった方がいい。それに対して危機感を持つのはお金を支配の道具にしてきた側だけでいいのではないのでしょうか。しかし、それに知らないで加担してきたのが、また、私たちではないかと思えます。もしそうだとすれば、そのシステムの崩壊にはそれ相当の痛みがともなうのではないかと思えます。その痛みがなければ、なにも変わらないのではないのでしょうか。天皇陛下の命をお捨てになった姿が、無言でそれを語っているようにさえ思ってしまう。

ただ、思うのは、サムライさんもいわれるように、私ではなく、公のために生きるということですが、私も含めてジリジリとしながらも以前の生活を繰り返しているように見える人間にも、私たちが公のために生きるということもあるのですよね、それがいいように利用され、会社のため、家族の生活のため、こどもの将来のためといいながら、結局は何も出来ないでいる。いつの間にか、お金が変化し支配に利用され、なすがままになっている感じがします。そんなお金なんかほんとうはいらない。人としての気持ちを前面に出して行動したい。今となっては、それだけではないでしょうか。

その辺りも、御製のなかに含まれているように思います。

>高き屋にのぼりて見れば煙(けぶり)立つ民のかまどはにぎはひにけり (新古今集巻七賀歌 仁徳天皇御製)

110 : サムライ :

2011/07/07 (Thu) 11:26:17

host:*.t-com.ne.jp

追加です。

原始の地球を覆っていた放射性物質は自然のものであり、逆に毎日小型原子爆弾1個分の放射性物質を、撒き散らしている福島原発のそれは人工であり、全く性質が異なることを明白に市川定夫教授が述べておられます。正しい知識を得るため以下の市川教授の講義は重要です。是非一度ご覧ください。

http://www.youtube.com/watch?v=IV4N63urYjQ&feature=player_embedded

109 : サムライ:

2011/07/07 (Thu) 02:35:31

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん

>ということは、被災地に慰問に行かれる天皇陛下の映像は内よりも外に対して相当インパクトがあるということになるのでしょうか。

インパクト云々についてはご想像にお任せしますが、今上陛下と日常的に接している栗原茂の話、包み隠さず此処でお話するとすれば、実は今上陛下はご自身の命を捨てる覚悟で、被災地を御訪問されています。無論、周囲の皇統奉公衆からは乳酸菌のみならず、その他大麻、ミミズといった諸々の放射能を防ぐ手段が陛下の耳に入りますので、当然マスクをした方が良いことも百もご承知です。それでも敢えてマスクもせずに被災地を御訪問されたのは、偏に被災住民のことを思っただけのことでした。つまり、もし陛下がマスクあるいは保護服を着用されて、被災地を訪問されたとすれば、そこにいる被災民がどう感じるかは容易に想像できます。陛下の国民を思う気持ちは以下の御製にも如実に顕れており、今日に至って綿々と引き継がれている大御心と云えると思います。

高き屋にのぼりて見れば煙(けぶり)立つ民のかまどはにぎはひにけり (新古今集巻七賀歌 仁徳天皇御製)

> フラーは自然でない物質は存在しないとっています。

御意。原始地球の生命は放射能を餌としてきたという飯山さんのお話に驚かれた方も多と思います。ただし、原始地球の頃の放射性物質は自然なものでしたが、福島原発から毎日原子爆弾一個分漏れている放射性物質は人工であることは忘れてはならず、これを念頭に東日本人たちは放射能地獄を生き抜いていかねばならないと思います。

> 大切なことは、その大きな意図を自らの意思として生きれるかどうかということになるのではないかと思います。考えてみると、これは私が長年疑問に感じていたことです。言わば、自分のテーマだったように思います。

実は、一昨日お会いした鹿沼市にある野州麻紙工場の主・大森由久氏のお話を、約一時間にわたって耳を傾けながら思ったことは、乳酸菌による救国の士が飯山一郎なら、大麻による救国の士は大森由久であるということでした。詳細については本掲示板の「放射能地獄の日本で生き抜く方法」に書いたので参照願います。

<http://grnba.bbs.fc2.com/?act=reply&tid=13166461>

つまり、私利私欲といった私ではなく、公のために生きるということが、宇宙の大意思に沿う生き方なのかもしれないと、小生は思います。

107 : 馬之助:

2011/07/05 (Tue) 21:43:58

host:*.bbtec.net

サムライさま

>だから、ある意味ではこうした凄い体験を出来る時代に生まれ合わせたことに、天に感謝したい気持ちで一杯です。

同感です。不思議と今は、これから始まろうとしていることに期待感が高まっています。紀野

氏は戦地での経験をいつも「ええなあ」としか言いません。それは決していいことばかりではなかったのですが、「ええなあ」という語感になぜかしら共感を覚えます。私もこれからの体験を大きなところで、「ええなあ」といつてみたいですし、そういったことが起こりそうな予感がするのです。

>簡単に大略を言えば、古事記編纂当時、世界中から集まったツラン圏のシャーマンが、続々と日本に到着、大量の貢ぎ物を皇室に献上した。ツラン系シャーマンの流入は止まるところを知らず、後から後から彼らの貢ぎ物が届くので、皇室の倉庫が空になる月もなかったという意味になります。

解説をしていただいて思い出したのは、昭和天皇御崩御の際の大喪の礼です。多くの国から国王や国家元首が参列しているのをテレビで見て、天皇に対する認識が国の内外で大きく違うのを感じました。また、参列者が儀礼としてではなく、深く哀悼の念を表しているのに驚きを感じたほどでした。

ということは、被災地に慰問に行かれる天皇陛下の映像は内よりも外に対して相当インパクトがあるということになるのでしょうか。命を捨てられたのかと最初考えましたが、周囲がそうさせるとも思えませんし、皇太子の姿もありましたから、もしかしたら理由は分かりませんが一定の安全が保障されているのかと、さまざまに想像をめぐらせていました。「発酵に関する一流のプロが皇統奉公衆に居ます」ということで、半分は納得しています。そういう意味では、私たちに飯山さんの乳酸菌があるわけで、庶民も皇室と同程度の安全が保障されているような気がして、ちょっとうれいすね。

フラーは自然でない物質は存在しないといっています。ということは、放射能がその存在を許されているということはそれが自然な物質だからということになります。自然な存在であれば、そこには相補性があり、COSMIC INTEGRITY(宇宙の完全無欠性)のおおきな意図によるシナリオを有しているはずです。そのシナリオは人間とそのマインドによって自らを(宇宙をも)進化させるもののはずです。大切なことは、その大きな意図を自らの意思として生きれるかどうかということになるのではないかと思います。考えてみると、これは私が長年疑問に感じていたことです。言わば、自分のテーマだったように思います。

102 : サムライ:

2011/07/04 (Mon) 03:34:22

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、お早うございます。

本題に入る前に皆様、本スレッドはヨシさんが立ち上げてくれたスレッドであり、海外移住という、所謂日本から“出て行く”ことに関するテーマです。逆に、馬之助さんと小生が関わっているテーマは、日本に続々と入ってくるツランがテーマです。

この板はもとより、ツイッターやブログの世界でも、「日本はもう駄目だ。海外移住しかない」という議論がアチコチで見受けられますが、こうした311前は考えもしなかった非常時の今だからこそ、逆に日本に続々と到着しているツランを語る意義が、色々な意味であると思った次第です。なお、ツランに関しては拙ブログでも幾度か取り上げていますし、また日本ツラン同盟会長を務める天童竺丸氏も、以下のようにツランについて一部触れていますので、参照してください。

<http://michi01.com/kantougen.html>

では、馬之助さん

現在、フラーを少しずつ読み進めています。尤も、他にも数冊の本も並行して読み進めていますので、いつ頃読了するのか分かりません(笑)。さて、フラーが語ったと云う締め括りの言葉…

「人類が無意識のうちによいとか悪いとか、あるいはポジティブとかネガティブとかみなすものは、より精緻な検証を要する進化上の相補作用なのである。」が、まさに311以降の日本、そして世界の姿ですね。これは馬之助さんの以下の言葉、「自らの意思によって検証」、という状況に我々は追い込まれたことになり、最初は各々の個人的なパラダイムシフトという支流が発生し、やがては大きなうねりとなって全体的なパラダイムシフトという大河に合流しつつあるのが、「今」だと思います。だから、ある意味ではこうした凄い体験を出来る時代に生まれ合わせたことに、天に感謝したい気持ちで一杯です。

> 柯(か)を連(つら)ね穂(ほ)を并(あは)すの瑞(みづ)、史(ふみと)書(しる)すことを絶(た)たず、
烽(とぶひ)を列(つら)ね譯(たん)を重(かさ)ぬるの貢(みつぎ)、府(ふ)空(むな)しき月(げつ)無(な)し。

この行ですが、栗原茂に解説してもらって小生も初めて知ったことです。簡単に大略を言えば、古事記編纂当時、世界中から集まったツラン圏のシャーマンが、続々と日本に到着、大量の貢ぎ物を皇室に献上した。ツラン系シャーマンの流入は止まるところを知らず、後から後から彼らの貢ぎ物が届くので、皇室の倉庫が空になる月もなかったという意味になります。

712年に編纂されたという古事記ですが、ちょうど来年は2012年は1300年目に相当します。まさかとは思いますが、太田明さんの『日本古代遺跡の謎と驚異の表紙裏に書かれている、「人類の歴史は太古に仕組まれた、ある計画に沿っていた」という冒頭の見出しが脳裏をよぎる今日この頃です。

98：馬之助：

2011/07/02 (Sat) 22:28:52

host:*.bbtec.net

サムライさん

さすがは舎人とでもいいでしょうか、一太刀一太刀に凄みが加味されていく感じです。

フラーが「クリティカル・パス」の冒頭で、「よいとか悪いとかいう言葉は無意味だというのが著者の作業仮説である。これは科学的事実に基づいているのであって、たんなる私的見解ではない。」といい、「永遠に再生しつづける宇宙の成功に相補性が不可欠である以上、ポジティブの反対と見なされる現象はネガティブでもなく、まして悪いものでなどありえない。いままでよいとか悪いとか思われてきた相反する現象が、永遠に再生しつづける宇宙の100%の成功にとって不可欠だからである。どちらも宇宙にとってよいものなのである。」と続けています。今、困難な状況下で、この立場が強く求められているように感じています。そして、「人類が無意識のうちによいとか悪いとか、あるいはポジティブとかネガティブとかみなすものは、より精緻な検証を要する進化上の相補作用なのである。」と締めくくっています。社会全体でそれを検証していくこと、なによりも個々人が身近な事柄から、自らの意思によって検証していくことが相補作用を働かせ進化を促すように思います。

皇統奉公衆についてはなにも分かりませんが、その行動原理はフラーのいう作業仮説とおなじものではないかと想像しています。考えてみれば社会の停滞は、みんなが同じ側に立とうと考えたために、進化上の相補作用を止めてしまっているのではないのでしょうか。平面幾何学という幻想の世界で安住しようとしている。そこに球面幾何学がその実相をあらわすと、自明なものがそのまま自明のことと分かってくるのではないのでしょうか。それはすでに去年辺りから隠しようがなくなって来ていると思います。だから、起こって来ることには坦々とできるかぎりのことがやれるように努めることで、平面幾何学のほうがその正体を現し崩壊して行くようです。そういった努力は、恐らく個人レベルでやれることです。乳酸菌を育てることもそのひとつでしょう。今回の災害や放射能で、その現象は、今や加速度的に進んでいるように思います。

> ヒントはどうも古事記の「序」に書かれているようで、1300年以上も前の古事記の編纂時、ツランという繋がりを持つシャーマンが、世界中から日本に駆け付け事実が、古事記の「序」に明確に書いてありました。それは、以下の部位です。

柯(か)を連(つら)ね穂(ほ)を并(あは)すの瑞(みづ)、史(ふみと)書(しる)すことを絶(た)たず、烽(とぶひ)を列(つら)ね譯(たん)を重(かさ)ぬるの貢(みつぎ)、府(ふ)空(むな)しき月(げつ)無(な)し。

この一文が気になってしようがありません。よかったら、どう読み下していけばよいのかご教授下さい。

86 : サムライ:

2011/06/30 (Thu) 10:44:17

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん

> ツランという繋がりとか、皇統奉公衆の歴史的な存在の大きさを感じないではいられません。

小生だけではなく、飯山さんも311直前までツランについて、HPに熱心に書いておられました。だから、311が無ければ、飯山さんのHPで、ツランを巡る面白い展開になっていたのにと、誠に残念です。放射性物質のように皇統奉公衆も目に見えぬ存在ですが、ちょうど書籍の行間を読むように世の中の動きを追っていくと、次第に見えてくるものがあると思います。

> 前に石原莞爾の秘話で、「お隠れ」になって日本を裏から支えているというのがありますが、

今でも、公には亡くなったとされている誰もが知っている方々が、実際に「お隠れ」になって日本のために尽くしておられます。時代が「今」ですので詳細は書けませんが、幕末明治に「お隠れ」になった孝明天皇などは、『ニューリーダー』や『月刊日本』で落合莞爾氏が精力的に記事にして発表しています。（伊藤博文が岩倉具視の指示で孝明天皇を暗殺したという巷の説は、鹿島昇らがディスインフォメーションに引っ掛かったに過ぎない）

<http://twitter.com/#!/fibonacci2010/status/85495868073062400>

無論、落合氏の情報源も栗原茂氏です。それを念頭に満洲の過去を調べれば、日本の秘密が分かりますと栗原が云っていました。満洲の「今」ですが、『月刊日本』の山浦嘉久氏や飯山さんが記事にして書いていますので、小生としても付け加えることはありません。

> ということは、満州での建国、紙幣発行や都市計画、他国の反応、なによりも国際通貨並みの紙幣の信用など、ノウハウや経験の蓄積があるということですね。であるなら、今までいつでもそのような芸当ができたということではないのでしょうか？

御意。ただし、日本の政体は既に死に体ですので、それができるのは国体です。

> おそらく最後の砦である日本がそれをしたのでは、ツランが結集する意味がない。あくまでも球面幾何学でないといけない（天の理に叶っていなければならない）。機が熟していないとすると、なにが欠けているのかとすると、どうもそれは人心ではないかと思えてきます。また、球面上の三角形の内外を考えると、三角形の外側もそうならなくてはならない（そうでなくては内の

存在もない)。となると、日本が雛形だという考えも頷けてきます。

この日本が雛形ということについては、折があるごとに紹介させていただきます。それにしても、はるか昔の1300年も前に、ユーラシア大陸のツラン圏のシャーマンが日本に結集したという古事記の「序」にあるように、古事記ことに序と上巻には人類の叡知が隠されていることが少しずつ分かるようになりました。

83 : 馬之助:

2011/06/28 (Tue) 23:11:45

host:*.bbtec.net

サムライさん

栗原氏の「何故、ユダヤ・キリスト・イスラムといった一神教の教典（聖書・コーラン）が成立した後に、古事記が編纂されたのかに思いを致せ」というのはすごい話ですね。ツランという繋がりとか、皇統奉公衆の歴史的な存在の大きさを感じないではられません。

今回はじわじわと、いろいろ考えてしまいました。

前に石原莞爾の秘話で、「お隠れ」になって日本を裏から支えているというのがありましたが、ということは、満州での建国、紙幣発行や都市計画、他国の反応、なによりも国際通貨並みの紙幣の信用など、ノウハウや経験の蓄積があるということですね。であるなら、今までいつでもそのような芸当ができたということではないのでしょうか？同時に、今後いつでもそれができる。そういう頭で過去を振り返ると、内外からそういう圧力が強くあったということですね。しかし、そうしなかった。むしろ死んだ振りをして来た。

ここで重要になって来るのは、「球面幾何学に戻るよう皇室が指示し、皇統奉公衆が戻るための道標となる青写真を作成、その実行部隊として5年ほど前から徐々に日本にツラン集結、現在では万人単位となっている」というサムライさんの推測で、私はこの推論に賛同するものですが、やはりくせ者はこの球面幾何学というやつですね。「古事記の編纂時に、ツランという繋がりを持つシャーマンが、世界中から日本に駆け付けた事実」があるということは、球面幾何学の意味するところはそうとうな深みがあると思います（現代の日本人は平面幾何学に毒されていても、その自覚すらないものですから、ネット上でも天皇や皇統奉公衆に対してトンデモ発言がでるのはいたしかたないのかも知れません）。ということは、今の段階で、日本が立ち直ったとしても、平面幾何学上のものでしかないということになります。日本人も強くそれを望んでいるような報道ですが、おそらく最後の砦である日本がそれをしたのでは、ツランが結集する意味がない。あくまでも球面幾何学でないといけない（天の理に叶っていなければならない）。機が熟していないとすると、なにが欠けているのかとすると、どうもそれは人心ではないかと思えてきます。また、球面上の三角形の内外を考えると、三角形の外側もそうならなくてはならない（そうでなくては内の存在もない)。となると、日本が雛形だという考えも頷けてきます。

常懐悲感 心遂醒悟といいます。悲しみに眼を洗われなければ、心がついに醒悟していくことはないというわけですから、まだまだ気が抜けそうもありませんね。といっても、どこかワクワクして来るのはなぜでしょうか。また、雑談室が最近明るいのがなによりですね。

80 : サムライ:

2011/06/26 (Sun) 04:45:29

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、フラーの著した『クリティカル・パス』と『宇宙エコロジー』が早くも届きました。約3メートルはあると思われる未読の書籍の山の上に二冊を載せました。小生は生活の糧を得るため、時間のかかる翻訳業をやっている上に、乳酸菌と大麻の運動に関わっているため、両書を読

破するのに多少の時間がかかりそうです。それでも、今晚あたりから赤と青の鉛筆を舐めながら読み進めていこうと思います。内容的に藤原肇氏のマクロな視座を連想させる書籍であり、久しぶりに興奮しました。

> 『古事記』は日本国や日本語ができる以前のものだということになりますね。そう考えたほうが、居心地のいい感じがします。

栗原が時々、「何故、ユダヤ・キリスト・イスラムといった一神教の教典（聖書・コーラン）が成立した後に、古事記が編纂されたのかに思いを致せ」と我等舎人に時折語りかけてきます。この言葉をヒントに想像をめぐらせたところ、アニミズムという多神教の縄文の心を持った人たちが、一神教の経典を含めた、古代の叡知を集大成した意義が、最近になって漸く臆気ながら分かってきました。ヒントはどれも古事記の「序」に書かれているようで、1300年以上も前の古事記の編纂時、ツランという繋がりを持つシャーマンが、世界中から日本に駆け付け事実が、古事記の「序」に明確に書いてありました。それは、以下の部位です。

柯(か)を連(つら)ね穂(ほ)を并(あは)すの瑞(みづ)、史(ふみと)書(しる)すことを絶(た)たず、烽(とぶひ)を列(つら)ね譯(たん)を重(かさ)ぬるの貢(みつぎ)、府(ふ)空(むな)しき月(げつ)無(な)し。

そして、以下の馬之助さんの御発言…

西洋の宗教の平面幾何学的なものに思えます。日本も戦後は新興宗教の影響で宗教そのものを毛嫌いする風習が行き渡ってしまっていますが、海の民としての長い歴史は、そう簡単に影響を受けないのではないかと思います。311以来ネットの情報にも平面幾何学に導いていこうという感じを受けますが、意識に上って来ないだけで、球面幾何学が大勢の人々の意識に上って来るのではないかと予感しています。

端的に言えば、球面幾何学に戻るよう皇室が指示し、皇統奉公衆が戻るための道標となる青写真を作成、その実行部隊として5年ほど前から徐々に日本にツラン集結、現在では万人単位となっていると、栗原の話から想像しています。当然、福島原発でも動いていることでしょう。このあたり、古事記の「序」でツランが集結した歴史的事実、そして栗原茂から聞いた話を基に、小生が勝手に推測したものにすぎないとは云え、多分当たらずとも遠からずといったところではないでしょうか。

78 : 馬之助:

2011/06/24 (Fri) 23:01:23

host:*.bbtec.net

サムライさん

栗原氏推薦の『太陽系大地図』のはなしですが、サムライさんの古事記に関するブログのなかで紹介されていた、太田明著『古代超文明の謎と驚異』にある球面幾何学とか地球幾何学のはなしと共通するようですね。フラーは、三角法は海の民によってはじめられ、地球を球体として認識するに至ったといっています。球面幾何学を自然に身に付けていったのですね。ということは、『古事記』は日本国や日本語ができる以前のものだということになりますね。そう考えたほうが、居心地のいい感じがします。

『クリティカル・パス』にあります、西に向かった人たちも紀元前3000年ごろのバビロニア幾何学では、球の幾何学で全方向的な幾何学だったといっています。ところが、たとえば紀元前300年ごろのユークリッドでは、バビロニアの多次的な有限のシステムが、二次元の平面幾何学へと後退しているといっています。なぜなのでしょう？

平面幾何学とは、中学の時やらされた自然界には存在しない平面を前提にした考え方で、たとえば三つの線分が三つの交点で交わることではじめて閉じた面（三角形）になりますが、それ以外の平面は無限大に広がっていると認識されます。むかしの平面の海図が四方の海に果てしがないようなイメージで描かれているのと同じです。私たちは教育によってこのパラダイムを植えつけられているようですが、たとえばこれだと三角形の部分を自分とか家族と仲間とするとそれ以外の外部は強大で果てしのないものとして思考停止（三角形内部の保全にばかりとらわれる）を起こしてしまうのです。どなたか、無限の可能性とっていましたが、そこから先には容易に進めません。西洋文明の罠ですね。

球面幾何学では、三つの線分は大円の一部（円弧）であり中心は共通し、それは同時に球の中心でもあるのです（平面では三つの線分はなんの関連もないバラバラなものです）。そして、球面上の三角形は球を内と外に二分することになります。内が閉じた三角形ならば、同様に外も閉じている有限のシステムなのです（内ばかりではなく、外も三角形が囲っている）。これだと思考停止どころか外も自分の一部として積極的に認識していこうという方向性ができます。自分を内としても、外は決して強大なものでも、無限なものでもない。詳しくは述べませんが、これが一般に広まることを西洋では極端に嫌い、平面幾何学を導入し思考停止を起こさせ、日本でも西洋文明の導入とともにそのようにされて現在にいたっているわけです。

それ以前の日本はどうだったのかというと、思うに、わかるように隠されたということでしょうか。その中心に天皇を置くことによって、自然なこととして下々にも理解を行き渡らせることで国として繁栄に導いていったということでしょうか。

西洋の宗教の平面幾何学的なものに思えます。日本も戦後は新興宗教の影響で宗教そのものを毛嫌いする風習が行き渡ってしまっていますが、海の民としての長い歴史は、そう簡単に影響を受けないのではないかと思います。311以来ネットの情報にも平面幾何学に導いていこうという感じを受けますが、意識に上って来ないだけで、球面幾何学が大勢の人々の意識に上って来るのではないかと予感しています。

玄米食とか100回噛むとか、肉を食べないとか、乳酸菌にしても、船上の冒険家の食事のように思えてしまいます。

74 : サムライ:

2011/06/23 (Thu) 07:20:33

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、有り難うございました。先ほど、早速アマゾンにフラーの著した『クリティカル・パス』と『宇宙エコロジー』を注文しました。今から到着が楽しみです。特に、翻訳者が本掲示板でも最近話題になっている、ブログ【犬のしっぽ】の梶川泰司であることを知り、さもありませんと思った次第です。

実は、図版の多い『宇宙エコロジー』と関連して、栗原茂の推薦で小生が数ヶ月前に購入したのが、小学館が出している『太陽系大地図』でした。世界地図がある家庭は多いと思いますが、太陽系の地図がある家庭は皆無に近いと思います。そのような現況下、栗原が同書を薦めたのは、『古事記（ふることふみ）』の上巻（かみつまき）に登場する百柱の神々を立体的に理解するために必要だからそうです。この百柱には宇宙の真理が全て籠められているとのことですが、浅学非才の身の悲しさで未だ百柱と太陽系が具体的に結びついていません。したがって、古事記研究は人生後半のライフワークになると思います。ちなみに、古事記の冒頭で登場する高天の原は、天の川、すなわち我々の銀河系のことであると、栗原は言っています。

ともあれ、フラーの語る「原子力に関する、現在の地球の置かれている状況を予見していたようです。そしてこれこそが、人類が超えていかなければならないこととしているようです」を念頭

に、フラーの業績も古事記研究の一環に組み入れてみようと思ったことでした。

72 : 馬之助:

2011/06/22 (Wed) 22:56:48

host:*.bbtec.net

サムライさん

今、私も読み直しているのですが、バックミンスター・フラー著 クリティカル・パス 白揚社がそれです。副題が、「人類の生存戦略と未来への選択」となっています。現在と未来を語るために、今までの歴史を語っています。1980年代の著作ですが、原子力に関する、現在の地球の置かれている状況を予見していたようです。そしてこれこそが、人類が超えていかなければならないこととしているようです。

フラーが80歳を超えて、死を見据えての作品で、包み隠さずすべてを語っているようです。前回読んだ時には、いわゆる陰謀論など話題にもなっておらず、経済学にも積極的な関心もなく、その部分は読み飛ばしていたところもあるのですが、その辺りを陰謀論的な表層からではなく人類として根源的な部分から語っているようです。フラーはローマクラブと論争をして、ひとりで完全に論破したため、死後になってから生前の業績を歪められていった人で、現在関心を持たれているのは日本においてだけだということです。それも見越していたようで、自分の発明発見（現実と50年のタイムラグがあると考えていたようです）はすべて特許にしておいて、アメリカの特許局のサイトから、すべてを無料で閲覧できます。面白いのは、言葉にしている理論をすべて、モデリングというのですが、具体的な物質として表現している点です。ですから、翻訳の梶川氏も作図したり、模型を作ったりした上での作業になったようです。クリティカル・パスには最小限の図版しかないのですが、その補足として、宇宙エコロジー（美術出版社）が必要になるかも知れません。十分な説明のないものもありますが、必要な図版をすべて掲載してくれています。

71 : サムライ:

2011/06/22 (Wed) 16:50:24

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

> フラーの説によると、人類は太平洋中南部諸島に端を発して、最期の氷期が去ったあとに、何段階かに分けてアジア大陸に進出していったこととなります。

フラーは人類史も手がけているんですね。フラーのどの書籍か教えて戴けないでしょうか。小生は3年前に海外に滞在していた際、持っていた書籍の1冊が『人類は絶滅する』（マイケル・ボウルター著 朝日新聞社）という本でした。これは道友が推薦してくれた本ですが、流石に良書でした。今、書架から同書を取り出してみると、赤線や青線が至る所に引かれており、現地で熱心に読んだ当時を思い出しました。フラーの説が人類の過去について語っているとすれば、『人類は絶滅する』は人類の未来、それも絶滅への道を語っていると云えそうです。

> 一粒万倍といわれるのが米であるなら、太陽信仰が日本の底流に流れていると思います。

栗原に米民族と麦民族の違いを色々な角度から教わっていますが、米と麦という植物で人物を計る、栗原流の言葉で言えば「氏姓鑑識」で相手を知ることになると思います。その意味で、栗原から直伝で学んでいる「舎人家紋講座」は、現在は中断していますが、福島原発の見通しが立てば再開され、再び己れの生疏里を探し求める旅に出ることになると思います。

尾崎さん、

> 嘗て栗原茂氏から愚生に頂いた「知（ち）」と「胆（い）」の世界の違いそのものに通じます。

そうですね。また、栗原からの情報は今後も「家紋講座」としてツイートしていきますのでヨロシク。

> 柳生新陰流の奥義の一つにも繋がる世界ではと考えております。

流石は『場の思想』を著した清水博先生と交流を持つ尾崎さんです。今後も色々と「場」について教えて下さい。また機会があれば清水先生に再会できればと祈念しております。

70 : 馬之助:

2011/06/19 (Sun) 11:09:50

host:*.bbtec.net

サムライさん

多方面でのご活躍、ご苦労さまです。

栗原茂氏の稲（米）の話は面白いですね。特に以下の部分は、まさに快刀乱麻。発想の斬新さには、人間のマインドのおおきな力を感じないではいられません。

> 神イネと神ムギでは同じ神でも素材が異なっている。

> 単なる政策よりも人命を司るDNAに左右されるのが自然であり、主食をイネとするかムギとするか、その日常的習慣を種族の変遷に加えなければ、人種の分類など奇怪千万、さらに氏姓鑑識などに及ぶ博識(はくしき)は得られようもない。

フラー風というならば、稲（米）をたべることによって、私たちは太陽の光をたべているということになるのでしょうか。光合成によって太陽は米の体内にデンプンとして蓄えられ、人の体内へと移行し、さらにDNAを更新していると考えると面白いですね。

フラーの説によると、人類は太平洋中南部諸島に端を発して、最期の氷期が去ったあとに、何段階かに分けてアジア大陸に進出していったこととなります。彼らは筏のようなもので潮流に運ばれるままに東に向かい、受容という東洋の哲学を生み出していく訳ですが、そこは太陽の豊かな恵みを受けた神イネの地だったということでしょうか。

一方、その後何千年かを経て、大三角帆をもった船を開発することで、海流に逆らって西方に向かって長距離を帆走するようになった。気まぐれな潮流の要素に左右されることなく、それに抗して自らの目標にむかって前進していく。「風上に間切って進む」ことは、それゆえ神に逆らって意図的に行動することを意味する訳ですが、行き着いたところは神ムギの地だったということになります。米と違って完全食ではない麦は、その不足分を絶えず自らの努力で補わなければならないということですが、おそらくそれは自らが望んだ結果なのでしょう。

一粒万倍といわれるのが米であるなら、太陽はその根源です。

化石燃料もそのひとつでしょうが、地球を宇宙船地球号というひとつの船に喩えるフラーは、それは始動のための補助燃料であって、本来は星がその使命を果たしたのちに燃え尽きていくためのものだといっています。米がそうであるように、メインの燃料は太陽の恵みにあるはずで、太陽の恵みに向い合う。それは本来の東に向かって来た私たちの姿かも知れません。

フラーは、宇宙はテクノロジーとノウハウでできているといっています。いま、宇宙船地球号は、

内部に宇宙空間（放射能）が広がろうとしています。

69：尾崎清之輔：

2011/06/19 (Sun) 01:49:38

host:*.ocn.ne.jp

65.のサムライさんのご見解に同意します。「頭ではなく胆でしか分からない世界があることを、こうした連中は知らないのであり、説明したところで理解できるはずもない」とは、嘗て栗原茂氏から愚生に頂いた「知（ち）」と「胆（い）」の世界の違いそのものに通じます。

また、この「胆」とは、相手と自分の"場"を重ねて、（自らの）人中路を真っ直ぐ斬り徹すことにより相手の方が斬られているという、柳生新陰流の奥義の一つにも繋がる世界ではと考えております。

65：サムライ：

2011/06/18 (Sat) 10:04:33

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、皆さん、意外と早く仕事が捗ったので、皇室関連の事を少し書きます。

今朝、小生は以下のような内容をツイートしました。

<http://twitter.com/#!/fibonacci2010/status/81842452872429568>

これは、小林朝夫という役者上がりの自称ジャーナリストが、今月の15日に「私のツテを使って確認したところ、天皇陛下ご一行は京都に移動されたようです」とツイートしたことに対して、小生の意見を述べたツイートです。小林はタレントの小林亜星の息子であり、ツイート世界で小林は東海アマのような人物を尊敬していると明言していることから、人としての器が知れる人物です。

時期は違いますが、やはり311直後に同じような「天皇陛下は京都にお移りになった」というデマを書いたのが副島隆彦であり、そのあたりの経緯は拙ブログに以下のように書きました。

上記の副島氏の発言は、副島氏が皇室インナーサークルとの接触が全くないことを示しており、あれば「京都にお移りになった」などと馬鹿なことを書くはずがない。それ以前に、原日本人、副島氏が言うところの“土人”と皇室との目に見えぬ繋がりすら、同氏には見えておらず、本当に今上陛下が“京都にお移りになった”場合、筆者を含め、あとに残された東北や関東の“土人”が、パニックに陥るであろうといった程度のことすら、副島氏は思い浮かばなかったようだ。こうした人間には、たとえば以下のような御製の心など、到底理解できるはずがない。

高き屋にのぼりて見れば煙(けぶり)立つ民のかまどはにぎはひにけり（新古今集巻七賀歌
仁徳天皇御製）

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2011/05/post-727e.html>

小生は上記の拙記事をプリントして、皇室インナーサークルの栗原茂氏らに渡したので、副島の愚行は同氏を通じて、山口組の司忍や元後藤組の後藤忠政ら日本の仁侠に伝わっているはず。なかでも栗原氏の話では、後藤氏が青筋を立てたとのこと。

ここで、仁侠と云えば暴力団としか思い浮かばない人が多いので、これ以上の言及は避けるが、仁侠についてはやはり拙記事を参照していただきたい。

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2010/03/-0013.html>

最後に、馬之助さんのように小生の皇室絡みの話を、素直に受け止められる人はいることは心強い。つむじ風さんのサイトで、「貴乃花の偉大さと大相撲の真のオーナーは天皇家」について言及したり、「栗原茂が氏姓鑑識によって10分もかけずに副島隆彦を見抜いた」などと書いたところ、信じられないという意見を寄越した者がいた。頭ではなく胆でしか分からない世界があることを、こうした連中は知らないのであり、説明したところで理解できるはずもないと、そのまま放置したことがあるだけに尚更である。

さて、幸い仕事も終わったので、これから上京して面白い会合に出てきます。内容は近日中にツイートします。

50 : 馬之助:

2011/06/07 (Tue) 22:24:59

host:*.bbtec.net

サムライさん

同感です。了解しました。

しかし、フラワーのプリセッションのような話を、皇室関係者が日頃話されているとは、驚きとっては失礼にあたるかも知れませんが、情報操作されて伝わってくる話からすると、そういう印象を受けてしまいます。でも、サムライさんからその話を漏れ聞くと、安心する思いがします。日本もなかなか捨てたものではありません。

現実が、さらに展開して行きそうで楽しみです。

フラワーは、地球のことを、宇宙船地球号と呼び、「この船はまちがいなく旋回する」と言い残しています。

49 : サムライ:

2011/06/07 (Tue) 09:28:03

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

大入道が二週間ほど中国に行ってくるのだと。そのため、ここの掲示板の他、ツイートでも質問が洪水のように襲って来つつある予感がします。当面はそちらに時間を取られそうなので、洪水が引いたら、じっくりと意見交換しましょう。

ところで、バックミンスター・フラワーの以下の話は印象に残ります。これは、皇室関係者が日頃口にする公と私の話を連想させます。

個々のこまが精一杯回転していればプリセッションははたらいてくる。そのはたらきによって、自ずから物事は COSMIC INTEGRITY(宇宙の完全無欠性)のおおきな意図にそって成就されていくわけです。だから、それには「まったく自分以外の人のためにそれを行なうこと」が大切になっていくのです。そうすると、物事は自然（じねん）にうまくいく。

逆の立場に立って考えると、利己的な計画を破綻なく進めようとする、個々のこまの回転をとめて、プリセッションのはたらきを排除する必要がある。それで人に恐怖や絶望感を与えて、諦めさせようともっていくのです。

この掲示板での動きは基本的に公に他ならず、やがて一つの大きなうねりになっていくと思

います。その日まで互いに己れに出来る範囲で進めていきましょう。

さて、皆さん、いよいよ大入道…じゃなかった飯山さんが中国に行き、海外移住の準備に取りかかります。面白くなってきました。

48 : 馬之助:

2011/06/06 (Mon) 07:23:58

host:*.bbtec.net

サムライさん

どうも、日本人にあきらめさせようとしむけている人たちの存在があるようです。しかし、あきらめるといふ日本の言葉は、諦めるといふのが本来の意味ではなく、明らめる、すなわち明らかにしていくというのが、その本質であるということ、攻守共々忘れていてのではないのでしょうか。では、何を明らかにしていくのか？それが、畢竟して如何であり、それによって心を明るくしていこうということだと思ふのです。危機的状況が「個々の人間に生きることを悟らせる宇宙の叡智がとったもっとも力強い方法である」とフラーがいうのはこのことだと思ふし、天皇陛下が「雄々しく」といふ言葉に、秘かにそれをお託しになられているのではないのでしょうか。

バックミンスター・フラーは、球上の2点を結ぶ最短距離は、直径を含んだ円周すなわち大円 (GREAT CIRCLE) であるといっています。円はもちろん中心がないと描けないのですが、中心があると、また描けないのです (中心があるというほど大きければコンパスの針は大きな中心上で移動してしまう)。それが、天皇というなきに等しい存在の仕方だと思ふし、その円周としてはたらいていくのが、私たちではないのでしょうか。そこは単なる円周ではなくて、GREAT を冠した円周なのです。

フラーはプリセクション (PRECESSION) という概念を持ち出して面白いことを言っています。「プリセクションとは回転運動している物体と他の回転運動している物体との相互作用である」といふ (太陽にたいする地球、原子核にたいする原子の運動と同じなので) 「プリセクションは、あきらかに純粋な宇宙の原理である」といふのです (どうもこの辺の話は、サムライさんの言うように、古事記をひも解いてみる必要がありますが、話をつづけます)。

地球ごまは水平にこまの板が回転しますが、作用は重心方向、回転している方向 (水平) に対し 90° (垂直) にはたります。ハンマー投げでは、同じく水平方向にハンマーを回しますが、投げようとする方向に対して 90° 手前で手を放さないと目的とする方向に投げることができません。自分の意図に対して 90° にはたらく、その働きがプリセクションだとフラーはいうのです。それが何人も人が関わり、組織、社会と大きくなっていくとプリセクションがどの方向からはたらいてくるのか人知が及ばなくなるのです。計画は直線的には前に進まない。必ず複合的な螺旋構造を描くのです

(面白いことにこの螺旋、パソコン上に作図できないのです)。これが人の利己的で直線的な計画が結果的に破綻して行く法則だといふのです。そのはたらきを司っているのが、COSMIC INTEGRITY (宇宙の完全無欠性) だということになります。個々のこまが精一杯回転していればプリセクションははたらいてくる。そのはたらきによって、自ずから物事は COSMIC INTEGRITY (宇宙の完全無欠性) のおおきな意図にそって成就されていくわけです。だから、それには「まったく自分以外の人のためにそれを行なうこと」が大切になっていくのです。そうすると、物事は自然 (じねん) にうまくいく。

逆の立場に立って考えると、利己的な計画を破綻なく進めようとする、個々のこまの回転をとめて、プリセクションのはたらきを排除する必要がある。それで人に恐怖や絶望感を与えて、諦めさせようともっていくのです。これが、いままでに何度となく繰り返されてきている歴史であり、現在も目の前に繰り返されていることだと思ふます。

ところが、日本の言葉には、それそのものにいのちがあるようです。機械的に日本語を操っている人には「諦める」としか響かないにしても、日本人としてルーツをしっかりとった人には、「明らめる」として、ことばのほうから心に響いてくるのです。それが個々のひとたちの回転運動を止めない原動力になっている。「畢竟して如何」と個々が問われている。

その運動は、乳酸菌によって生命の維持を保証されることで、より力強くなっていくのではないのでしょうか。これもプリセッションのはたらきだと思います。個々が回転を止めなければ、プリセッションは人知のおよばない方向から、宇宙レベルの力となってはたらいてくるはずで

47 : サムライ:

2011/06/05 (Sun) 04:26:13

host:* .t-com.ne.jp

馬之助さん、

> 石原莞爾の秘話、すごいですね。日本は裏で支えられる国柄なのでしょうか。

そのとおりです。公には既に亡くなったとされている方々の中にも、今でも「お隠れ」になって日本を裏から支えている方々があります。このあたりの情報は、今年の夏に和歌山県の落合莞爾氏の狸庵を訪問し、数泊させていただいていますが、共通の知人に某皇室インナーサークルがいて、落合氏も小生も、その皇室インナーサークルから裏情報を得ております。

<http://twilog.org/tweets.cgi?id=fibonacci2010&word=%E8%90%BD%E5%90%88%E8%8E%9E%E7%88%BE>

> 岡潔は人が分かるという時、信解、情解、知解という順番で起こるといっています。

小生は、現在『古事記』（ふることふみ）の上巻（かみつまき）を通じて、岡潔の云うところの「信解、情解、知解」を学んでいます。

<http://twilog.org/tweets.cgi?id=fibonacci2010&word=%E5%8F%A4%E4%BA%8B%E8%A8%98>

上記の古事記関連のツイートの中で以下のようなことを書いています。

「【古事記と光合成③】それが光合成で、植物と動物、最終的に人類が誕生した。これが国之常立神から伊邪那美神に至る神世七代の神々である。だから、最初に「意」（最初の三柱）があつて人間としての原動力が生まれ、次に「情」（続く二柱）があり、最後に意と情の働きで知（神世七代）が誕生した」

ここで、岡潔の云う「信解、情解、知解」が、古事記の「意、情、知」に相当すると解釈しています。古事記の百柱までは今年の夏までに暗誦できるまでになりました。古事記に関してはブログにも書きましたので、ご関心があれば一読ください。

<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/cat21573264/>

> 私の理解では、それに一番長けている人が天皇であり、その存在があるからこそ、日本人は日本人として独特の能力を発揮してきたのだと思うのです。

御意。日常的に今上陛下と接している、皇室インナーサークルと接しているだけに、良く分かりますし、その通りです。

> 今大切なことは、各人が自らのマインド=信解、情解=仏心（ほとけさん、でも、かみさん、でも、おてんとさん、でも、なんでもいい）と繋がって行くことで、それをまったく自分以外の人のために行なう心だと思うのです。それが天皇陛下のお言葉のなかに出てきた「雄々しく」という意味ではないのかと思っていますし、飯山さんのいう一人一人がリヴァイアサンになるということだと思うのです。

そうですね。再び拙ブログで申し訳ないのですが、「ををしさ」についても記事にしました。
<http://pro.cocolog-tcom.com/edu/2011/04/post-b1a1.html>

41 : 馬之助:

2011/06/04 (Sat) 23:20:35

host:*.bbtec.net

サムライさん

石原莞爾の秘話、すごいですね。日本は裏で支えられる国柄なのでしょう。

岡潔のように情緒を大切に考える数学者なんて、現代にいるような気がしません。近代史の捏造や、いま目の前で繰り広げられている日本を代表する大学の御用学者たちの言動を見るにつけ、我が子に掛ける言葉もない感じです。

それにしても、サムライさんの交友関係の広さには驚かされるばかりです。

サムライさんが作成した法華経の説明文の映像のところに、ちょうど信解というのがでていますが、岡潔は人が分かるという時、信解、情解、知解という順番で起こるといっています。そして意識化できるのは知解で、信解、情解というのは仏心、言わば無意識のはたらきだという話だと思っています。

岡潔と同じく、数学の範疇を飛び出ていった人に、バックミンスター・フラーがいます。彼は、「宇宙のデザインの内に人間とその法制化された原理を発見していくマインドが包含されるものと想定している」といっています。そして宇宙を階層構造にとらえ、最上位に、**COSMIC INTEGRITY**(宇宙の完全無欠性)を置いています。人間はマインドによって宇宙の完全無欠性と繋がることができるということです。そこに能力とノウハウが無限にあって、そのためにマインドを使う方法は、まったく自分以外の人のためにそれを行なうことだといっています。このマインドというのが、信解、情解だと思うのです。

私の理解では、それに一番長けている人が天皇であり、その存在があるからこそ、日本人は日本人として独特の能力を発揮してきたのだと思うのです。ところが、今の状況を見ていると、とても日本人らしくないというか、良い部分をうまくそぎ落とされてしまっているように感じます。どっちを向いても、知解ばかりです。

フラーは、「政治家とは人びとが日々の生活を改善していくうえで発生する諸問題を調整する人間のことであり。政治家に社会全体の先導（イニシアティブ）を求めることは、犬のしっぽに犬の散歩を頼むようなものだ。」といっていますし、「失敗とは、個々の人間に生きることを悟らせる宇宙の叡智がとったもっとも力強い方法である。人間が、宇宙を支配する神秘的な完全無欠性(integrity)ともっとも密な関係を築くのは、失敗を犯した事実を自ら認める時に限られている。その現実からこそ人間は、失敗をもたらした誤った概念から自己を解放できる。」ともあります。

今大切なことは、各人が自らのマインド=信解、情解=仏心（ほとけさん、でも、かみさん、でも、おてんとさん、でも、なんでもいい）と繋がって行くことで、それをまったく自分以外の人のために行なう心だと思うのです。それが天皇陛下のお言葉のなかに出てきた「雄々しく」という意味ではないのかと思っていますし、飯山さんのいう一人一人がリヴァイアサンになるということだと思うのです。

えいこさん

隆慶一郎の小説の面白さは、その背景にある、斬新な歴史解釈なのですが、それがサムライさんによると、確かな筋から出てきているものだということで、私も再読しようかなと思っています。

37 : サムライ:

2011/06/03 (Fri) 08:01:44

host:*t-com.ne.jp

馬之助さん、

残念ながら、殺人内閣が崩壊し、リヴァイアサンが登場とならず、どうやら奈落の底に突き進むことに決定しました。それでも皇太子殿下が東京を離れない限り、チェルノブイリ以上に汚染された関東平野に居を構えている身でありながら、まだ残された道があると信じ、今後もこの関東の地に残ります。また、飯山さんの乳酸菌の他、一部に大麻の復活運動が盛り上がりつつあることもあり、期待が持てそうです。

さて、

>ところが、今年に入って何年か振りに紀野氏の「法華経の風光」という全五巻の大著を読み返していると、3.11が起こりいろいろ思っているうちに、今度は「諸法実相」がむこうの方からやってきた感じで、腹の中にストーンと落ちた様子です。まだ、意識に上ってくるころまではいってませんが…。

小生は、そこまで紀野氏の本を深く読んでおらず、その意味で馬之助さんは凄いと言う他はないのですが、やはり3.11が大きな転機だと思われます。法華経と言えば、交友のある玉井禮一郎氏から、日蓮宗や石原莞爾について色々とお話を伺っており、いつかは玉井さんが出版した法華経に挑戦したいと思っていましたが、残念ながら未だ実行に至っていません。以下は、小生が作成した玉井さんの法華経の一部です。法華経と言えば石原莞爾ですが、今までに世の中では公になっていない事実を此処で明かします。それは、公では石原莞爾は昭和24年(1949年)8月15日に死去したことになっていますが、実は石原はその後も生存していたのであり、「隠れた」ことにして戦後の日本を裏で支えていました。この情報源を公開することはできませんが、間違いなく信頼できる情報源(人物)です。この「隠れる」という行為は普遍的なものであり、“暗殺されたとされる”孝明天皇、斬首されたとされる小栗上野介なども、公の死亡日以降も生きていました。

<http://www.nextftp.com/tamailab/tamai/hokeykyo.htm>

>数学者の岡潔が、「正法眼蔵」が読めるようになりたくて、何年も枕元においていたそうで、それがある日突然、すべて意味が分かりすらすらと読めるようになったというのです。その時、先達のことを思うと自分などがこんな本を急に読めるようになるはずはないので、自分の意識が高くなっていくのではなく、今の時代、天の方が降りてきて、閾値が低くなっているのだという風なことを書いています。

そうした、「奇跡」のような出来事が、これからも至るところで起こりそうですね。それから、岡潔は本物であり、一回の数学者という範疇を超えた方だと思います。現在、お付き合いをしている都内の林さんという方が、嘗て岡潔の門下生だったこともあり、在りし日の岡潔の貴重なお話を良く伺っています。機会があれば、拙ブログ【教育の原点を考える】に、岡潔人物評を纏めてみたいと思います。

34 : 馬之助:

2011/06/02 (Thu) 23:07:01

host:*.bbtec.net

サムライさん

まったく同感です。再びツランに関するテーマで、盛り上がりたいものです。

ところで、人というものは知らないところで、繋がりというか、共鳴し合っているものですね。ただ、私の場合はいまだに迷いっぱなしで、紀野氏の本は手放せません。

阪神淡路の震災の後、このことに関してなにを話されるのか聴きたくて、紀野氏の講話会に行ったことがあります。

司会の方も、「人の心や社会が乱れから、自然がこのように人に対して云々」と、水を向けていましたが、いつもと変わらないお話でおいしかったです。司会の方が、お話の後に自分の判断で義援金を募っているのを見て、「へえ、好きだね…」と一言。その後も何度か話を聞きに行きましたが、同じ調子で、どこか納まりの悪い感じが拭いきれませんでした。

夏に充分時間があつた講話の時、「質問になんでも答えるよ」ということで、出てきたのがやはりこのことに関した

質問でした。それに対して一言、「諸法実相で抜けられる」。

私は唖るしかなかったのですが、やられたとは思うものの、どこか腹に落ちては来ませんでした。

ところが、今年に入って何年か振りに紀野氏の「法華経の風光」という全五巻の大著を読み返していると、3.11が起こりいろいろ思っているうちに、今度は「諸法実相」がむこうの方からやってきた感じで、腹の中にストーンと落ちた様子です。まだ、意識に上ってくるところまではいってませんが…。

数学者の岡潔が、「正法眼蔵」が読めるようになりたくて、何年も枕元においていたそうで、それがある日突然、すべて意味が分かりすらすらと読めるようになったというのです。その時、先達のことを思うと自分などがこんな本を急に読めるようになるはずはないので、自分の意識が高くていけるのではなく、今の時代、天の方が降りてきて、閾値が低くなっているのだという風なことを書いています。

確かに、なにかが起こっているようで、日々迷いながらも、それが楽しみです。

30 : サムライ:

2011/06/02 (Thu) 07:25:36

host:*.t-com.ne.jp

馬之助さん、

隆慶一郎や紀野一義といった懐かしい名前でした。もう記憶も曖昧ですが、隆慶一郎に関しては山窩を調査時、藤原肇さんか栗原茂さんに教わった記憶があり、紀野一義に至っては、同氏の仏教関連書を数冊読んでいます。たしか、己れの人生について悩んでいた二十代前半の頃だったと思います。

> サムライさんも「いくさ人」なんですね。

いくさ人は色々な呼称がありますが、小生の関係する世界では舎人（とねり）と読んでいま

す。現在、家紋についてシリーズでツイートしていますが、今朝のツイートでサムライの遠祖は平安時代の舎人である旨、告白しました。

<http://twitter.com/#!/fibonacci2010/status/76044062825779202>

ともかく、今上陛下や皇太子と日常的に接している、栗原氏のような皇室関係者との交流を通じて、己れの生疏里（ふるさと）が分かってきたのは幸いでした。ちなみに、上記の家紋シリーズの入門レベルをマスターすると、人は誰でも二千年ほど前の遠祖にたどり着けると、栗原は言っています。

今は、日本は国難の真っ只中にあり、飯山さんのツラン情報も中断していますが、今日殺人内閣が崩壊し、リヴァイアサンが登場、暫くして再びツランに関するテーマで本掲示板が賑わいを戻せばと祈念しております。

26 : 馬之助:

2011/06/01 (Wed) 19:10:18

host:*.plala.or.jp

えいこさん

思わず「上ナシ！！」といてしまいました。これは隆慶一郎の小説か、紀野一義の本のなかでそれを話題にした

部分にでてきた言葉だったと思います。

お二方も帝大在学中に学徒動員で戦地に赴かされた人です。フランス文学とインド哲学と分野は違うけど、堀辰雄の講義をおなじ教室で聴いていたとか。隆氏は言葉少なですが、二人とも戦争での経験を否定的には語らないところが（どこまでいっても個人の経験ですし、同期が大勢命を捧げてもいるのですから否定することなどできませんよね）、凄みのある生き方だと感銘しています。

隆氏の小説によく登場するのは、えいこさんのいう山窩や傀儡など「道々の輩（ともがら）」と呼ばれる人たちで、彼らを「真の独立自由人」であり「いくさ人（にん）」であるとして、お二人とも、自らそうありたい、そう生きたいとしてきた人です。それで「上ナシ！！」という訳でした。

この道々の輩は、天皇からどの関所でも通れる通行手形を与えられていたので、自由に日本中を渡り歩けたという話ですが、それもあってか、上ナシと言いながら、天皇の命にはいのちを惜しまない。だから、大空は、それに近い存在としての天皇にも自然に繋がっていくのではないのでしょうか。

サムライさんも「いくさ人」なんですね。

紀野氏は、最期から二番目の輸送船団でレイテ戦線に送られています。その前の船団は全滅、最期のも全滅。紀野氏の船団は、13隻のうち一番小さな船が一隻だけ残って、途中で台湾のキールン港に逃げ込んで助かったということです。

学徒動員といっても、ほとんどが戦うこともなく散っていったのです。で、皆それを分かっている。沈んでいく僚船の甲板では、だれ一人取り乱すことなく直立不動で敬礼し残されていくものにいのちを託し、静かに海の中に消えていったそうです。

今も昔も、変わっていない部分は、いい面も悪い面も変わらないままのようです。いま、危機的な状況で、じりじりとしながらも騒いでいるのは、いくさ人としての血なのではないでしょうか。その血が目覚めたとき、いくさ人として、真の独立自由人としてユーラシア大陸に羽ばたいていきたい。そんな思いです。

その覚悟の上に、人と繋がっていききたい。それがなければ、私は集団に馴染めそうにもない感

じです。やっぱり、サムライさんのように一匹狼（せめて家族と一緒に）のほうが気が楽です。
それまでは、乳酸菌とともに生きていこう、というところでしょうか。

21 : サムライ:

2011/05/30 (Mon) 07:38:24

host:*.t-com.ne.jp

このスレッドの切込み隊長をヨシさんに頼んだのは小生ですが、やはり見込んだだけのことはあり、優れた投稿を連発しているのが光ります。

さて、19の馬之助さんの以下の発言が如実に示しているように、311以降の人たちの心のなかで、パラダイムシフトが確実に起きているのは間違いないでしょう。むろん、未だに311以降は嘗ての日本ではないことに、気付いていない人たちが主流を占めてはいるものの、飯山さんではないが、今や自身と大切な家族を守り通すのが最優先事項です。

私たちは知らないうちに、なにかに依存して生活することを受け入れてしまっています。なにかに保証されているという幻想に、安住している。それを疑ってみる機会すら今までになかった。だから、危機的な状況をできることなら無視しようとする。責任をどこかに転嫁して、直視させようとする人に喰ってかかたりする。

危機的な状況は、徐々に私たちを追いつめて、畢竟して如何と問いつめているようです。それに対して、少しずつじりじりと、生きることの本質的な部分ににじり寄り寄って行くしか、私たちにはできないのではないのでしょうか？パラダイムシフトとは、そんな作業のように思います。

現在は乳酸菌、ヨーグルト、NY、霧吹きなどで精神的な安定を保っている我々も、今秋以降の放射能に汚染された新米、さらには半永久化した福島のコチェルノブイリ化と、命に関わる問題が目の前に山積みであり、自身そして大切な家族の将来に不安を抱いているのではないのでしょうか。その意味で、せめて此処の掲示板で互いに生き抜いていくための情報を、今後も精力的に交換できればと願っています。

本題からずれました。

小生は放射能地獄の関東に住んでいますが、もし小生が自身を育ててくれた秩父山地の麓の家を捨てて遠方に逃げるとしたら、それは今上陛下をはじめとする皇族の方々、特に皇太子殿下が東京を捨てる時です。

現在、両陛下が精力的に被災地を訪問されていますが、ここの掲示板を訪問されている皆様のよう、放射性物質の怖さを知っている人たちからみれば、マスクもしない両陛下を見て驚くのではないのでしょうか。実は、放射性物質の怖さを最もよくご存じなのが今上陛下であり、それなのに敢えてマスクもせずに被災者の方々と向き合うお姿を見て、既に死に体になっている政体と違って、我々を生み育ててくれた日本という国体は、今後も大丈夫だと安堵する次第です。

追伸

今夜、NHKの「鶴瓶の家族に乾杯」で、被災地の石巻（後編）が放送されます。午後8時00分～8時43分

19 : 馬之助:

2011/05/29 (Sun) 22:53:39

host:*.bbtec.net

サッサと避難できる人は、なにかしら自由度の高い部分をもっている人だと思います。

私たちは知らないうちに、なにかに依存して生活することを受け入れてしまっています。なにかに保証されているという幻想に、安住している。それを疑ってみる機会すら今までになかった。

だから、危機的な状況をできることなら無視しようとする。責任をどこかに転嫁して、直視させようとする人に喰ってかかったりする。

危機的な状況は、徐々に私たちを追いつめて、畢竟して如何と問いつめているようです。それに対して、少しずつじりじりと、生きることの本質的な部分ににじり寄り寄って行くしか、私たちにはできないのではないのでしょうか？

パラダイムシフトとは、そんな作業のように思います。

例えば、飯山さんのように乳酸菌という本質的な生物、作用とともに生きれば、おそらく日本だろうが中国だろうが、場所を問わない。ところが、私たちは所属すべき会社、組織、社会など、共同幻想を離れることは考えにくいのです。

ところが、乳酸菌を育てることによって、生きものの原点に触れ、それによって自らの生命を生き長らえさせられようともしている。その辺がおもしろいと思います。

共同幻想が支配してきた側のほうから、崩れていっている。そして、いつまでも被支配者のままでいたいのが私たちかもしれません。

パラダイムシフトとは、自明なるものが、自明なるものとして、分かってくることも思えます。